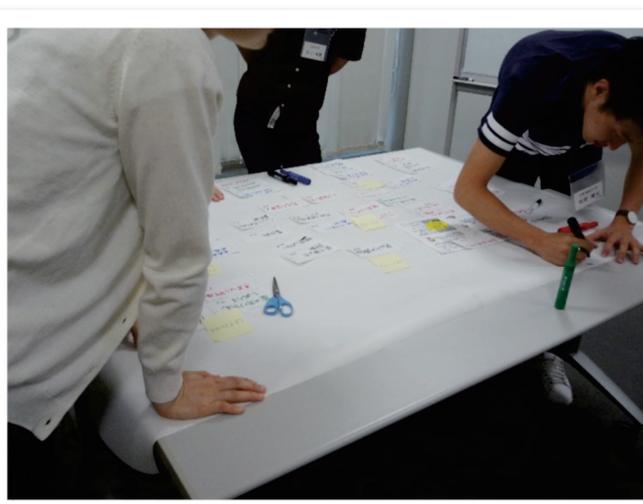


## 第二部

「これからの医療や社会に貢献するために、私たちに必要なものは何か？」

### セッションⅠ

「社会は、薬剤師に何を求めているのか？」



**第2部**  
「これからの医療や社会に  
貢献するために、  
私たちに必要なものは何か？」

**セッション1**  
「社会は、薬剤師に  
何を求めているのか？」



**第1部**  
ワールドカフェ、やってみて  
どうでしたか？



**第2部、セッション1**では・・・  
「社会は、薬剤師に何を求めているのか？  
(ニーズ)」を考えてみましょう。

社会が求めるニーズ、自分の求めるニ-ズや国家資格を持つ**ALL薬剤師**に求められるニーズについても考えてみてください。

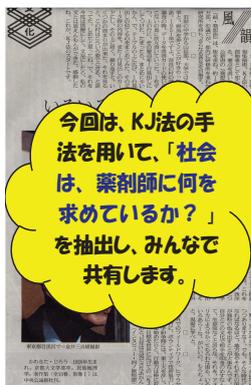
「社会は、薬剤師に何を求めているのか？  
(ニーズ)」を考えてみましょう。

1. ワールドカフェの「医療現場で印象に残っている場面」や「私たちの進路と夢」で、どんなニーズが考えられましたか？
2. これからの医療や社会は、どうなるか？  
そして、どんなことが必要なのか？
  - ・今、できていないことや、今、できていても、もっと進めたいこと
  - ・現在、求められていることを中心に、近未来のこと



**KJ法**

「社会は、薬剤師に  
何を求めているのか？」



**様々なニーズ**

**KJ法**

情報を徹底して収集

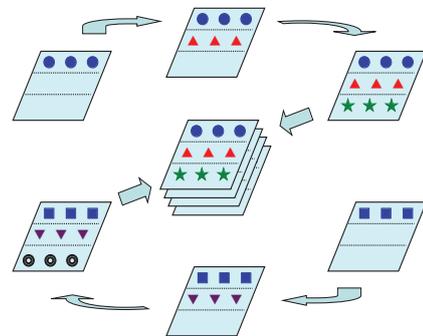
↓  
語るところを聞く

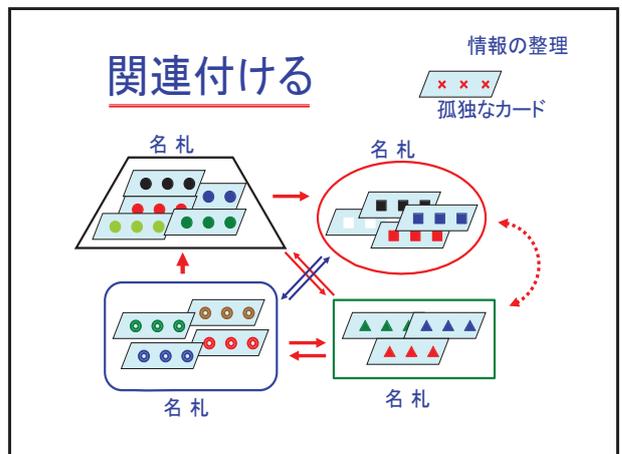
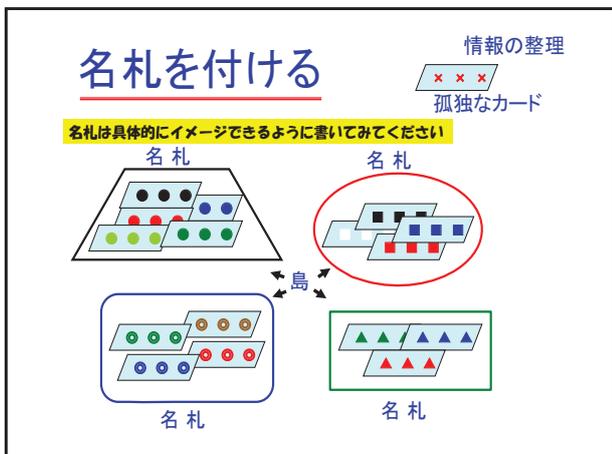
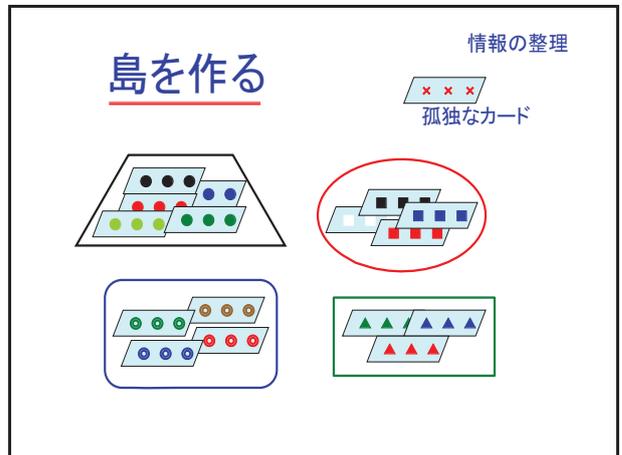
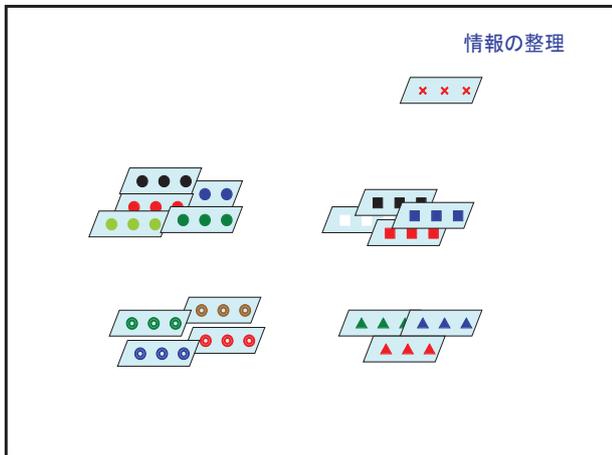
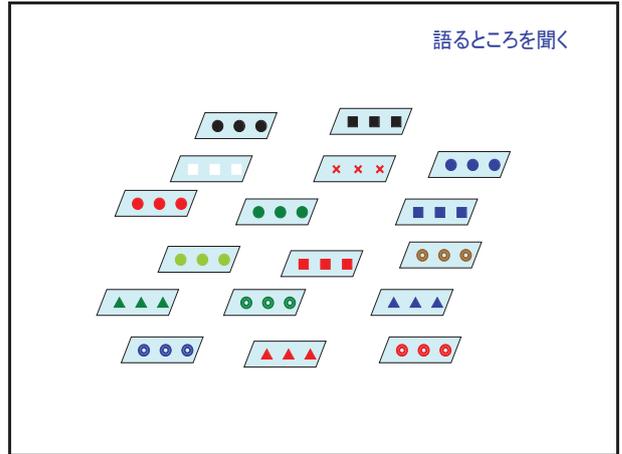
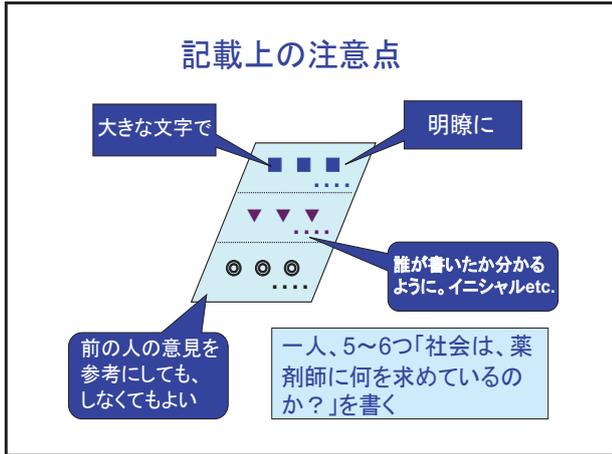
↓  
情報の整理

↓  
**ニーズの整理と共有**

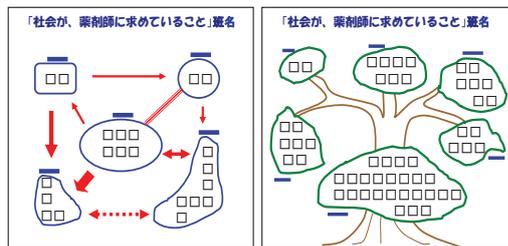
今回は、KJ法の手法を用いて、「社会は、薬剤師に何を求めているのか？」を抽出し、みんなで共有します。

**ニーズの抽出**





## 図式化



自由な発想で描いてみてください

## これからの作業

「社会は、薬剤師に何を  
求めているのか？」

KJ法でニーズを整理して発表

- 4役(司会、記録、発表、報告書担当)を決めましょう!
- 自己紹介とWorld cafeで印象に残ったことを紹介しましょう。10分
- 次に…KJ法 60分



## SGDが終わったら…発表

- P会場(模造紙で!)
- 発表 5分×3班
- 発表順 A ⇒ B ⇒ C
- 合同討議 15分

## P会場

14:35  
集合

資料をもらったら  
S会場へ移動してください!

第二部セッション1では、「社会は、薬剤師に何を求めているのか？」というテーマの下にディスカッションを行った。

### 【議論の経緯】

#### ①ニーズの抽出と島の分類、命名

初めに、社会から薬剤師へのニーズについて班員各自が考えると同時に、KJ法を用いて思いつく限りのニーズをカードに書きだした。その結果、43のニーズを抽出することができた。その後、内容に合わせて分類を行い、その都度ニーズの意図の聞き取りおよび議論を行った。最終的には9の島と4の孤独なカードに分類された。島の命名には、島ごとのニーズを包括する言葉が採用された。

#### ●周囲から信頼される人柄

- ・心に寄り添う
- ・伝えるだけでなく聴く
- ・悩みを相談しやすい
- ・プライバシーに配慮してくれる
- ・薬に関する質問に何でも答えてくれる安心感がある
- ・患者に関心をもつ
- ・健康な生活の手本となる

#### ●医療人としての覚悟と責任をもつ

- ・薬物治療に対する責任をもつ
- ・命と正面から向き合う覚悟がある

#### ●薬学に留まらない知識を身に着ける

- ・フィジカルアセスメントやバイタルサインが理解できること等により、簡単な応急処置ができる
- ・薬学以外の知識がある
- ・検査値を読み解く力がある

#### ●問題解決能力を身に着ける

- ・問題解決力がある
- ・研究を行う力がある

#### ●未病への介入

- ・健康について気軽に相談できる

- ・ 軽微な不調について相談できる
- ・ 適切な助言ができる
- ・ 運動療法、食事療法等の助言ができる
- ・ セルフメディケーションの補助、推進ができる

●地域への貢献

- ・ 受診勧奨を適切に行う
- ・ 薬に関する知識の講演会を開く
- ・ 超高齢化社会に向けて地域に貢献する
- ・ ポリファーマシーの改善に貢献する

●DI 能力（DI 業務による医薬品適正使用サイクルへの貢献）

- ・ 正確な情報を収集、提供する
- ・ 安心して服用できる医薬品を提供する
- ・ 情報のフィードバックを行う
- ・ 医薬品の安全使用を守る

●他職種との適切な連携

- ・ オペ室で医薬品を管理する
- ・ 治験に対応する
- ・ 医師の負担を軽減する

●医療費の削減

- ・ 医療費（薬剤費）の削減に貢献する

●孤独なカード

- ・ そもそも薬剤師は社会に求められているのか？
- ・ 新薬開発のための研究を行う
- ・ 幅広い知識をもつ
- ・ 高い専門性をもつ

②関連付けと図式化

我々は、本セッションの「社会は、薬剤師に何を求めているのか？」というテーマの前提と言える「そもそも薬剤師は社会に求められているのか？」を全てのニーズの土台として捉えた。そして、社会に求められる存在であるために薬剤師として備えておくべき心構えや知識、能力、および取るべき行動をニーズと捉え、土台に積み上げる形で図式化することとした。したがって、「そもそも薬剤師は社会に求められているのか？」という孤独な

カードが図式の最下層に当たる第1層に配置された（以下、第1層のひとつ上を第2層、その上を第3層、...とする）。

次に、知識や能力を適切かつ効果的に使おうとする心構えが、患者へのベネフィットを目的とした行動理念の元になるという考えから、第2層には医療人としての心構えが適当であると我々は考えた。このことから、心構えに相当する「周囲から信頼される人柄」および「医療人としての覚悟と責任を持つ」という島が第2層に配置された。

上記の心構えを持つことで、薬物治療のジェネラリストとしての「幅広い知識」やプロフェッショナルとしての「高い専門性」が身に着き、これらを適切かつ効果的に使うことのできる薬剤師が誕生すると我々は考えた。よって、第3層には「幅広い知識」および「高い専門性」という孤独なカードが配置された。

さらに、近年処方せんに添付されるようになってきた検査値への対応や健康サポート薬局として地域貢献していくために、「薬学にとどまらない知識を身に着ける」ことが求められてきた。また、医療の現場から問題点を抽出し、それを解決することのできる薬剤師が求められてきた。したがって、薬剤師の職域を広げる、および問題を解決するために必要な知識や能力として、第4層には「薬学にとどまらない知識を身に着ける」および「問題解決能力を身に着ける」という島が配置された。

以上の心構えと知識、能力を身に着けた薬剤師が、今後さらに社会に貢献していくために必要な行動として、セルフメディケーションの推進を中心とした「未病への介入」や高齢者医療への対応や薬に関する講演会の開催を介した「地域への貢献」、薬物治療に関する正確な情報の提供およびフィードバックを含むDI業務への貢献があると我々は考えた。このことから、第5層には「未病への介入」、「地域への貢献」、「DI能力」という島が配置された。

最後に、これら第1層から第5層までのニーズを満たす薬剤師には、地域や病院における「他職種との適切な連携」が求められていると考えられた。その求めに応じ、地域包括ケアシステムへの参画をはじめ、「手術室での医薬品管理」や「治験への対応」等を推し進めていくことが、薬剤師に求められている重要なニーズのひとつであると我々は考えた。そして、これら全てのニーズを満たすことで、日本の経済において大きな問題である「医療費の削減」等の到達点が見えてくるのではないかという結論に至った。以上のことから、図式の最上層に当たる第6層には、「他職種との適切な連携」および「医療費の削減」という島が配置された。



## 第二部セッション I

「これからの医療や社会に貢献するために、私たちに必要なものは何か？」

第一部では、「私たちの進路と夢」について臨床現場で印象に残っている場面や、6年間の学習で身についたこと、やりたかったことを踏まえて夢について World Café 方式を用いて話しあった。第二部では、KJ法を用いて上記のテーマについて話し合い、まとめた。

### <議論の経緯>

#### ニーズの抽出

KJ法にのっとり「社会に求められている薬剤師」について各々の考えるフレーズを並べた。また、ニーズとは現在求められているだけのものではなく、今後自分たちが提供していけるものを提案するという考え方を前提に、よりイノベーションな考え方も含むものとして検討した。

#### 語るところをきく

意味の似たフレーズをまとめ、書いた本人からどのような意味で書いた言葉なのかを確認し、理解の齟齬が発生しないように話し合った。また、個人のフレーズの意図を聞いた上で、類似した意見を書いた人は名乗り出してもらい、同じ意味合いを持った島としてまとめた。特に病院薬剤師としてのイメージと薬局としてのイメージの相違等を正した。

#### 島を作る

お互いのフレーズの意味を語りイメージを統一させることによって関連性が見えてきたため、関連づけられるもののタイトルを決め、島を作成した。どの島にも当てはまらない意見は、どの島により近いかを本人の意見を交え独立させながら位置を決めた。また、タイトルはできるだけ単語ではなくひと目で理解できるような文章にした。

#### 関連づけ、図式化

在宅医療、政府との関連等、ある部分の社会貢献をするためには付随して必要となってくるものや、結果的に関連付いてくる島同士を結び、相互関係のあるものは相互の矢印で繋げた。大きく分けると、地域で活躍する薬剤師の関連と、医療機関での薬剤師の役割についても島と相互関係をまとめた。最終的に作ったポスターでは右側が地域、左側が病院に関連したものとなった。今回議論の中で時間がかかったことについて、「コミュニケーション」が挙げられた。「コミュニケーション」とは、薬剤師間、医療関係者間、患者-薬剤師間において必要である。また、患者を知るという意味でのインプットのコミュニケーション能力が繋がる場所は地域であるが、知り得た情報を利用し、医療関係者での共有を行うアウトプットの場は医療機関である。そのため今回の議論では、「コミュニケーション」



以下、島のタイトルから内容を細分化する。

### 将来の薬剤師のあり方

類似した意見として、薬の処方について患者と話しあい方向性を決められる薬剤師、医師に提案できる薬剤師、さらに飛躍して、最終的にはアメリカのように処方権がある薬剤師、それと類似した制度を組み込むことができる薬剤師が必要であると結論づいた。

### 将来の医療のために

薬剤師としての資格を利用するだけでなく、知識を利用することによって研究開発に生かし、医療をよりよくするための新たな技術革新に努めることも ALL 薬剤師としてニーズがあるのではないかと議論にあがった。各々に関連性はないが、どれも医療改革や新薬排出を担う役割であった。

### 専門的な知識を使う

主に病院において、モニタリング、副作用軽減等、薬剤師としての知識を存分に生かし、今以上に患者さんの安全に貢献することが必要である。

### 災害医療への貢献

今後活躍が期待され、必要とされる現場として「災害医療現場」は満場一致で欠かせない。災害医療への貢献は地域医療との関連性が強いのではないかという話となり、聴診器が使用でき、フィジカルアセスメントが常にできるスキルとして備わっている薬剤師が求められるという結論となった。

### 地域医療

今後必要とされる、私たちがアプローチできるニーズとして、「地域包括ケアシステム」の発展が挙げられる。今後さらに、当たり前のように地域医療に貢献する存在であることが大切とされた。

### 健康の維持

地域医療と関連して、患者さんだけでなく、地域住民が未病状態を維持し、「薬を使わないこと」が今後の薬剤師の責務であると話し合った。

### 身近さ

信頼関係を築く、地域住民の健康に貢献するためには、ライフスタイルを熟知できるほど距離の近い存在であることがマストであるという話合いとなり、患者さんを知るためコミュニケーションを活発にし、さらなる地域医療に貢献する等のビジョンすべてに関連している

### 地域の化学者としての能力

地域住民の健康を守るさらに身近な存在であり続け、私たちの勉強してきた知識で貢献できる部分として、衛生面の管理や、洗剤などの化学医薬品の知識を提供することができるのではないかと挙げられた。

### 国民皆保険を維持するために求められること

今後膨れ上がる医療費を削減する（ジェネリック選択や、できるだけ無駄な薬を作らない）ことで、行政にも貢献し、日本の財政に貢献することができると挙げられた。

### 医療人同士の情報共有と発信/専門的な知識を使う

目先で求められているニーズである。薬学的知識を用い、医療関係者同士で正しく情報共有を行うことで、患者さん、また家族へのメンタルケア、アフターケアが可能になり、今後の展望である処方提案ができる立場にも近くことができる。

第二部は「これからの医療や社会に貢献するために、私たちに必要なものは何か？」という題。セッション I では、「社会は、薬剤師に何を求めているのか？」というテーマを元に、KJ 法を利用して社会が薬剤師に求めるニーズを探った。挙げられたニーズの内、関連のありそうなものを抽出して島をつくり、それらを関連付け図式化した。

### 【議論の経緯】

各自、アイデアを出し終えた後、これらに共通する価値観の軸とは何か？をまず話し合った。結果、薬剤師が関与する事柄のゴールは全て「患者の健康」に帰着するものだとし、それは医療人としての「薬剤師の素質」や「求められる知識」によって支えられているべきであるとした。そこで、患者の健康に関するフレーズを中心の島と位置づけ、その周囲に「薬剤師の素質」、「求められる知識」に関するフレーズを置いた。その他、「医療安全の確保」や「患者に配慮した服薬指導」、「プライマリーケア」、「シームレスな医療」、「在宅医療の推進」、「医療費の削減」、「災害対応」といった島はこれらと関係のあるものとして矢印で結びつけた。以下、その関連性についての考え方を記載する。

「医療人の素質」に含まれる“先を読んだ行動”は、“薬の取り間違い”や“薬剤の副作用リスク”から患者を守るための医療安全の確保につながるものであるとした。“より優れた責任感”や“人として求められる薬剤師”が派生し、“患者に配慮した服薬指導”が社会により必要とされているのではないかと考えた。これまでの薬剤師業務の専門性をさらに高めるこうした事柄以外にも、“在宅医療”や“医療のシームレス化”、“プライマリーケア領域”など患者や医療制度上、すでに興っているさらなる需要に対しても適応していく必要があるとの意味合いから内向き、両向き矢印で表現した。さらに災害の多発する昨今であることから、専門知識を駆使した災害時の対応にも積極的に貢献するべきである。その他、“薬物乱用防止教室の開催”といった地域住民のヘルスケアリテラシーの向上にも寄与していくべきとの意見も挙げられた。

以下、アイデアと島分類の詳細を挙げていく

### 【患者の健康】

- ・セルフメディケーションのサポート
- ・町の科学者としての薬剤師
- ・健康のサポート
- ・予防・健康増進のサポート

### 【求められる知識】、

- ・専門知識 +  $\alpha$
- ・高度な薬物療法への対応
- ・薬の知識以外にバイタル等幅広い知識を持つ
- ・フィジカルアセスメント

#### 【医療人の素質】

- ・より臨床に強い能力
- ・身近な医療人
- ・人として求められる薬剤師
- ・責任感（をもつ薬剤師）
- ・相談しやすい
- ・先を読んだ行動ができる
- ・自ら考えられる薬剤師

#### 【医療安全の確保】

- ・薬の取り間違いを減らす
- ・患者さんの安全確保
- ・薬学的知見から安全性を確保する事

#### 【患者に配慮した服薬指導】

- ・医療英語に対応する
- ・患者のレベルにあった服薬指導
- ・地域に根差す専門薬剤師
- ・安心して薬を使えるような服薬指導
- ・気持ちにまで配慮した医療の提供
- ・雰囲気を読み取る

#### 【プライマリーケア】

- ・24時間対応できるようにする
- ・処方薬・OTCの相談に気楽に立ち寄れる薬局であること
- ・救急医療の前段階に位置付けられるようになること

#### 【シームレスな医療】

- ・情報が共有できている状態
- ・地域一帯となった医療
- ・Drと対等に話せる薬剤師
- ・医療人間の地域コミュニティの潤滑油となる

#### 【在宅医療の推進】

- ・解剖生理が使いこなせる薬剤師
- ・在宅医療への貢献



第二部 「これからの医療や社会に貢献するために、私たちに必要なものは何か？」  
セッションⅠ 「社会は、薬剤師に何を求めているのか？」

<議事の経緯>

ディスカッションを始めるにあたって、先ず「社会のニーズ」が如何なるものであるかということについて議論した。

「社会」というワードから、普遍的かつ、国家・国民全体として取り組むべき問題を議論すべきであるとし、今日の社会的な医療問題の代表として「医療費の削減の必要性」が挙げられた。医療費の問題は多医療職種における共通の問題であり、医薬品のポリファーマシー、残薬などの観点から薬剤師の寄与するところは大きい。しかしながら、他の医療職種が気づかない或は解決できない臨床上の問題である場合、薬剤師が患者や医療従事者から適切に情報を引き出し業務連携する必要がある。我々は「情報を聞き出す」、「情報を評価する」、「適切にアセスメントする」という至極当たり前なプロセスが補完された先に医療費削減に至る可能性があると考えた。

上記より、「患者にとって心を開ける環境を整備する」、「医療従事者と情報共有をすることができる」、「確かな知識に基づき評価できる」の3つを兼ね備えていることが社会のニーズを満たした薬剤師像であると考えた。

具体的に薬剤師が求められている事項としては以下の通りである。

<プロダクト>

1. 薬局利便性の向上

薬剤師と患者の関係を良好な状態に保つことは真のコミュニケーションに至る第一歩である。患者にとって話し易い薬局の環境を整備する事は、薬剤師或は薬局経営者に求められることである。患者やその家族が話しやすいという前に一次診療の場である薬局に足をはこんでもらう必要がある。つまりそれだけコンビニエントであることが利用者が求める第一段階であると考えた。状況によっては「移動型薬局」、「24時間営業」、「ITCを用いた遠隔医療」等により、利便性を高める取り組みも今後幅広く行っていくべきである。

2. 薬剤師の地域医療に対する積極的介入

地域医療とは言うまでもなく、医療チームへの参画・理解が必要不可欠である。薬薬連携だけでなく、病院内、或は地域の医療従事者間、在宅などもこれに当たる。また、民生委員など地域包括ケアに携わる職種への理解も重要な責務であると考えられる。多くの意見の的は在宅での適切な薬剤管理能力が挙げられた。高齢化社会に於いて地域の複数の患者を薬剤師が個別に管理するということは容易でなく、在宅医療を円滑に行う能力は社会的ニーズを増すものと考えられる。

### 3. 他施設、他職種とのネットワークの強化

情報共有ネットワークの構築は、情報共有におけるもっとも現代的なメソッドの一つであり、高齢化に伴う患者の情報の増加を解決するにあたって比較的有用なアプローチである。「経営コスト面の問題」や「情報の公開・共有における倫理的な問題」が現実的でないと否定的意見があったものの、欧州の国家間における電子カルテのクラウドシステム化の様な取り組みは利便性の高い解決策の一つであるとした。

一方で、情報共有基盤が構築されたとしても情報共有に当たって、何等かの情報基盤を用いる際に「文章力」や「評価の適正化」が薬剤師に身につけているかどうか、さらには、他の医療従事者から既存の能力をどのように評価されているのかなど、薬剤師の資質が社会的ニーズを満たしているかという点で懐疑的な意見が上がった。これらの問題については次に示す「5. 薬の専門家としての責任」にも関わる案件である。

### 4. 医療費削減による経済の理解

医療経済への理解は医療従事者全体として、さらに薬剤師は種々の薬物治療及び公衆衛生の観点から必要不可欠である。主に議論のアプローチは2つの観点から行った。以下にそれを記す。

#### (ア) 薬物治療の是正を先導的立場から提案する

医療費の増大にはバックグラウンドとして残薬の増加やポリファーマシーに伴う不要な薬剤の過投与が原因として挙げられる。場合によっては、常用薬の使途が分からないにも関わらず患者が「これを飲むと調子がいい、処方してください」などと訴えた際に処方してしまうケースも考えられる。

お薬手帳を用いた処方意図の推測も然るべく必要であると考え。患者に必要な薬物治療を必要なだけ行う為に、薬剤師が周囲の医療従事者に最適な薬物治療について理解を求める行動は莫大な残薬問題を解決する第一歩であり、求められる姿勢であると考えた。

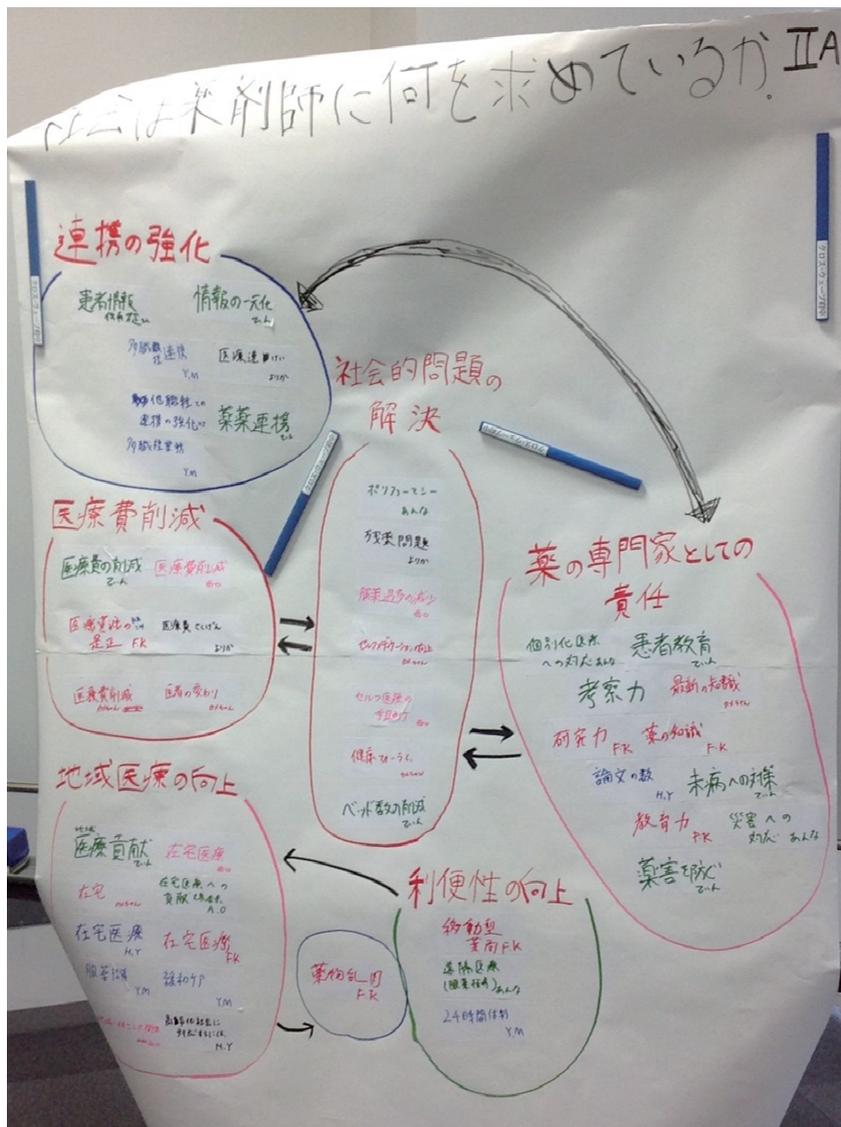
#### (イ) 患者の健康寿命増進に寄与する

一次診療として薬局が機能していることは薬剤師が国民の健康管理に密に寄与する可能性を包含している。そして、健康寿命の延長は人の生涯における医療費削減をもたらす。単にはセルフメディケーションを礎とした、健康に関するアドバイスによるものであり、薬剤師による健康増進が医療費の削減に寄与するということを薬剤師、国民、医療従事者は共通して理解する必要があると考えられる。

### 5. 薬の専門家としての責任

薬事衛生をつかさどる薬剤師にとって、医薬品の知識はすべての業に関わる礎である。またその知識を教授することも薬剤師としての責務であり、情報の収集・提供のいずれにおいても日々磨きをかけなければならない。近年では、未知なる問題に対する解決のアプローチを自ずと見出すことができるいわゆる「問題解決能力の醸成」も求められる

資質の一つであり、自ら未知であった問題に対する情報の発信も同じく責務の一部であると考えられる。



【テーマ】

社会が薬剤師に求めていること

【情報整理】

KJ法:一人一人がテーマに対する意見を複数書き、情報を収集した。類似した意見を「島」としてまとめ、各島の関連性を示して図式化した。どの島にも属さなかった意見は、孤独なカードとしてまとめた。

【島と分類された意見】

以下の8つの「島」と、孤独なカードに意見をまとめた。

「コミュニケーション能力」

- ・ 親しみやすさ
- ・ コミュニケーションを誰とでもとれること
- ・ 医師より気軽な相談相手となること
- ・ 患者さん1人1人に向き合う心
- ・ 1人1人違った服薬指導のスタイル
- ・ 服薬指導をよりわかりやすくすること
- ・ チーム医療への貢献
- ・ 終末期のケア

「地域貢献」

- ・ 在宅医療への貢献
- ・ 病院や薬局以外での対応(在宅)
- ・ 自宅訪問する薬剤師
- ・ 地域住民への貢献
- ・ 患者への寄り添い(身近な医療者として)
- ・ 地域の健康アドバイザーとなること
- ・ 早く(病気を)治してほしい
- ・ 問題解決能力
- ・ 英語、手話ができること
- ・ 災害時における様々な対応力
- ・ 衛生管理
- ・ フィジカルアセスメント

「幅広い知識」

- ・ 薬剤師同士でのコミュニケーション(病院、薬局、製薬会社など)
- ・ 情報を発信する力
- ・ 正しい知識

- ・メディアに左右されない知識
- ・薬の管理
- ・医師と対等であること
- ・自分の意見がきちんとある
- ・薬だけでなく病気についての知識
- ・食事指導、相談ができる
- ・生涯研鑽

#### 「指導力」

- ・薬剤師教育
- ・薬の正しい知識を、患者、学生、医療機関に教える

#### 「医療の発展」

- ・フィジカルアセスメント
- ・基礎研究－臨床の橋渡し
- ・新薬の開発
- ・ロボットに負けない向上力
- ・研究者としての薬剤師
- ・新しい着眼点
- ・常に学ぶ姿勢
- ・チャレンジ精神、行動力
- ・処方権(簡単なものでよいので)

#### 「医療費削減」

- ・治療における身体的な負担軽減
- ・安さ、速さ
- ・健康寿命の延長

#### 「透明性」

- ・明瞭化
- ・職能の明確化(患者、他の医療従事者にわかりやすくする)
- ・業務の透明化(不正が無いこと)

#### 「予防」

- ・健康でい続けるための方法
- ・健康を保つためのアドバイス

#### \* 孤独なカード

- ・薬剤師の数(必要な場所、地域に充分いきわたらせる)
- ・利便性(24時間対応や院内薬局の推進など、薬局をより利用しやすくすること)

#### 【議論の経緯】

薬剤師に対するニーズとして根本にあるのは「コミュニケーション能力」であると考えた。コミュニケーションを円滑に進めることができれば、薬剤師－患者間や、薬剤師－医

療従事者間の関係が向上する。これにより、地域の患者さん一人一人に合わせた治療をよりきめ細やかに行うことができ、「地域貢献」へとつながるからである。さらに、健康維持を促し、治療だけでなく「予防」にも介入していくことで、「医療費削減」のニーズに応えることができるのではないかと考えた。

また、コミュニケーションをとるためには「知識」が必要であると考えた。患者さんに説明する際の基本的なものから、医師や薬剤師、看護師などの医療従事者とやりとりするための専門的な知識まで、幅広く必要である。これらの知識を活かしたコミュニケーションは、患者さんや医療従事者に対する「指導力」の向上にもつながると考えた。

研究者としての薬剤師、という視点からも様々な意見がみられ、「医療の発展」に貢献できる存在としてもニーズがあると考えた。また、患者さんに対して、薬剤師の業務や役割をわかりやすくすることが求められている、という観点から、「透明性」として意見をまとめた。さらに、2つの意見が孤独なカードとなったが、これらの意見についても意図するところ〔前述、\*孤独なカードの( )内〕を共有し、重要な社会のニーズであるとして尊重した。

図：II B 班作成プロダクト



Ⅱ-C 班では、文殊カードに薬剤師の役割を出し、島を作って関係性を導き出すことを目標に、議論を行いました。結論としては、

- ① 薬局、病院、在宅、セルフメディケーション、コミュニケーションと、医療機関に求められる役割は多岐に渡っている
- ② そのためには、薬剤師個人に対して、親しみやすい人柄、知識、連携が求められる
- ③ 社会に対しても、薬剤師個人が災害医療や情報提供、環境衛生、流通なども求められると、強引に分類しています。しかしながら、議論の最中は多くの文殊カードが一つの島には収まらず、多数の島に該当するという状況でした。一例としては医療費の削減はセルフメディケーションの部分に該当していますが、病院や薬局を含め、どの業界に勤務する薬剤師に求められていると考えていました。他の文殊カードについても同様です。議論全体を通じて1つの薬剤師に求められるニーズを満たすためにも、複数の機関、複数の薬剤師が連携する必要性が強調されました。その結果、医療機関に求められるニーズにコミュニケーションという島があるにも関わらず、薬剤師個人にも親しみという島ができています。

以下に議論で出された意見を記します。

#### 【医療機関に対するニーズ】

##### 1. 病院

- ・ 情報収集
- ・ 薬学的管理
- ・ チーム医療における薬学的地検
- ・ 薬を減らしてほしい

##### 1.5. 病院と薬局

- ・ 緩和ケア
- ・ アドヒアランス向上のための薬学的介入

##### 2. 薬局

- ・ 地域におけるかかりつけ薬剤師
- ・ 患者の健康に貢献できる

##### 1～2について

薬局という地域に根ざした医療をできる機関に対して、病院は高度な薬学的管理ができる場所という視点で島を作成しています。1.5 の意見は病院、薬局が単独で行うことはできず、相互の協力が必要な場であると考えました。

##### 3. 在宅

- ・ 残薬管理（2人）

- ・在宅医療（2人）
- ・在宅ちゃんと！
- 4. コミュニケーション
  - ・コミュニケーション力
  - ・コミュカ
  - ・薬の情報提供
  - ・わかりやすい説明を心がける
- 5. セルフメディケーション
  - ・セルフメディケーションへの関わり
  - ・セルフメディケーション推進
  - ・健康食品・サプリメントの知識
  - ・健康相談
  - ・OTC・セルフメディケーションに貢献し、医療費を減らす
  - ・なるべく安くしてほしい
  - ・医療費の削減につながる
  - ・医療費の削減（2人）

※エビデンス

コミュニケーションの島に入っていますが、時間不足で入ってしまったものです。本来は、研究を含めた総合的なエビデンスが必要であるという意見でした。

3～5について

病院、薬局以外では在宅の必要性も話されました。セルフメディケーションでは、医療費の削減があげられていますが、議論の中では複数の島に関わっていると考えられていました。まとめの都合上、セルフメディケーションの島に含まれていますが、複数の医療機関、薬剤師が関連して達成されるニーズだと考えています。

コミュニケーションについては、後半の薬剤師に求められる能力と、医療機関に求められるニーズを結びつけるために必要であると考えます。

**【薬剤師に求められる能力】**

6. 親しみ
- ・患者に共感する
  - ・患者さん目線
  - ・医療者の目
  - ・薬を通じて病気の不安を取り除く
  - ・ゆるさ
  - ・待ち時間短縮
  - ・仕事の速さ
  - ・仕事の正確さ

- ・ かかりつけ薬剤師に相談しやすい環境
- ・ 信頼できる人物

## 7. 知識

- ・ トリアージ能力
- ・ 薬の専門知識
- ・ 薬物動態
- ・ スポーツファーマシスト
- ・ 副作用モニタリング
- ・ 薬の相互作用を考える
- ・ 薬の相互作用
- ・ 専門性
- ・ 生薬のプロ

## 6～7について

薬剤師の仕事がよくわからない、薬局で待たされるのはなぜ、という患者さんの疑問に対する答えとして、親しみという島を作りました。知識に関しては、様々な薬剤師に対するニーズに答えるために、調剤医薬品に関わらず、幅広い知識が必要だと考えました。

## 8. 災害

- ・ 災害時における衛生管理及び、治療の貢献

## 9. 連携

- ・ 安全
- ・ 食の安全
- ・ 医療機関との連携
- ・ 多(他)職種連携
- ・ チームを引っ張る力
- ・ 地域連携
- ・ どんな仕事をしているのか教えて
- ・ どんな仕事をしているか分かりづらい
- ・ 仕事のわかりやすさ

## 10. 環境衛生

- ・ 薬物乱用
- ・ 学校衛生管理
- ・ 工業などにおいて発生する有害物の生体に対する影響を考える

## 11. 社会に対する情報提供

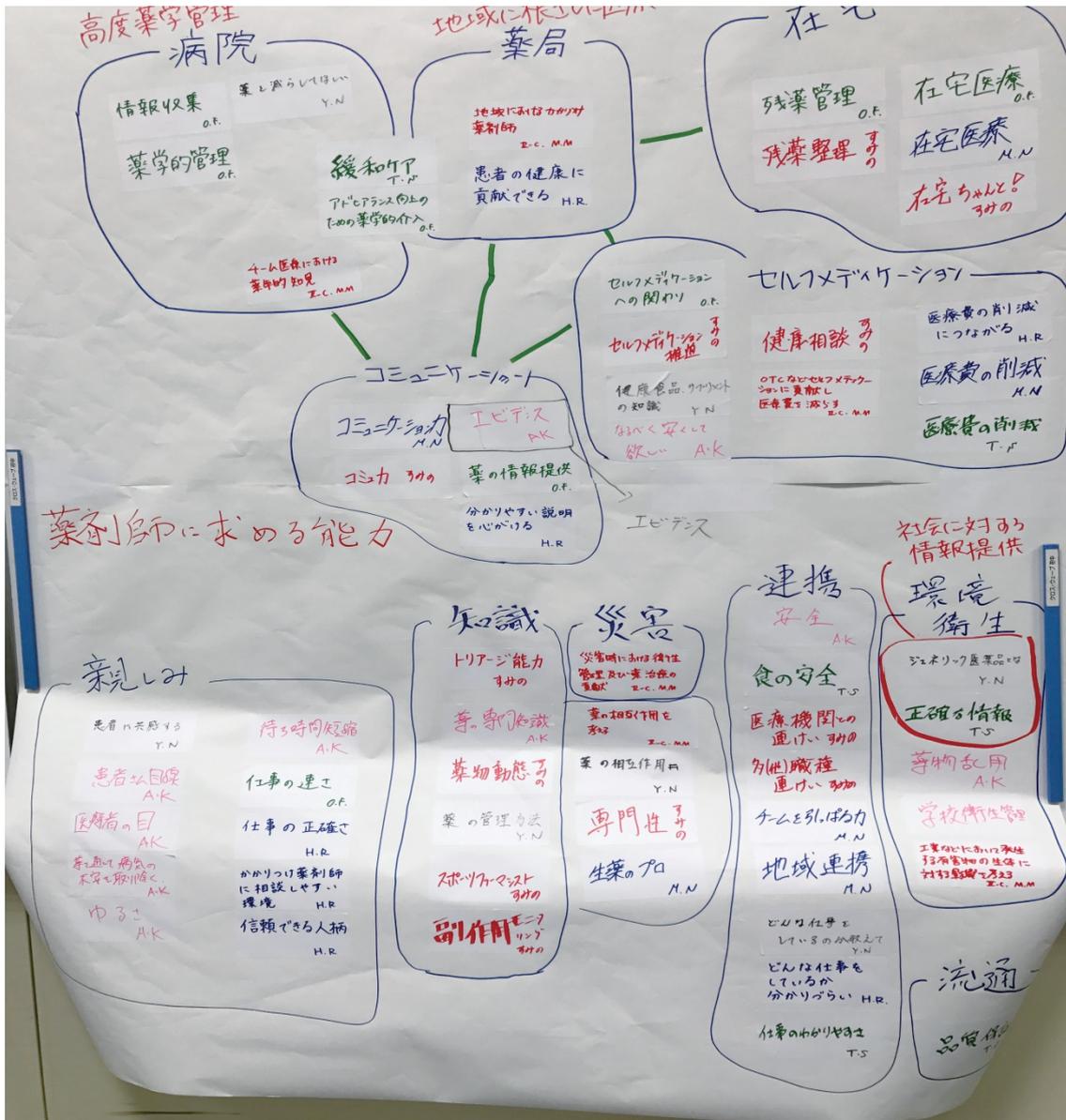
- ・ ジェネリック医薬品
- ・ 正確な情報

## 12. 流通

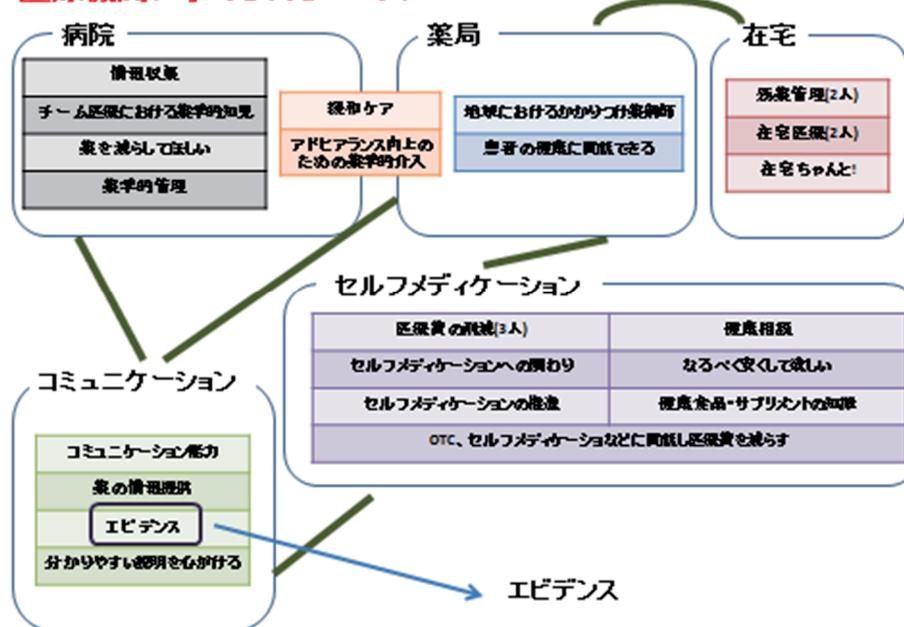
### ・品質管理

8～12 について

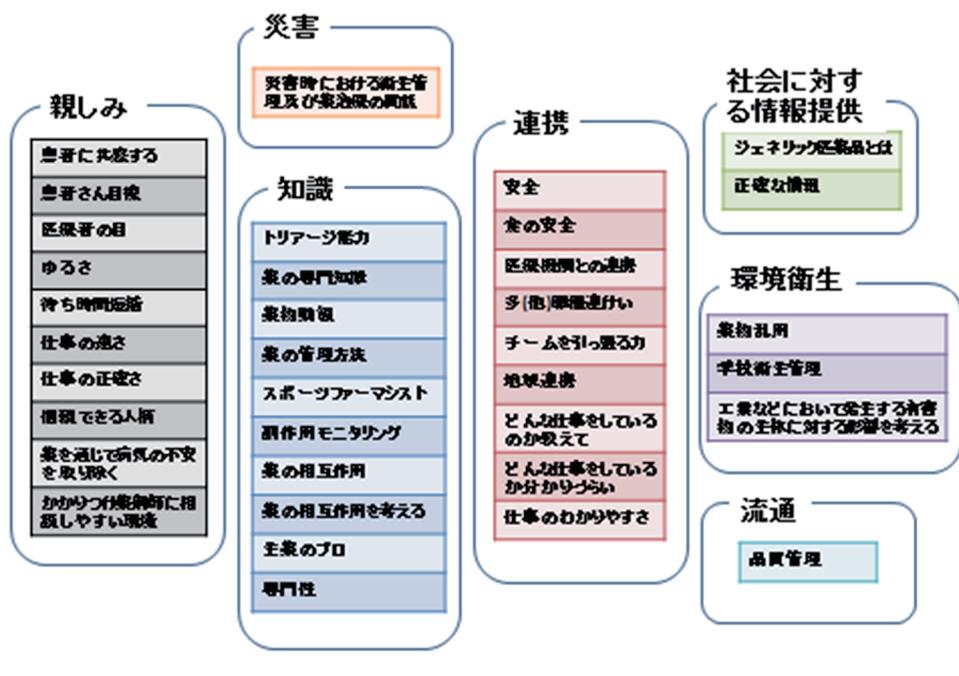
一部をのぞいて、医療機関に直接関係してこない島です。「病気を治す」ということ以外でも、薬剤師に求められるニーズがたくさんあることが議論されました。その中で、調剤・服薬指導以外の仕事をもっと理解してもらうこと、薬剤師からの能動的情報提供の重要性などを議論しました。



## 医療機関に求められるニーズ



## 薬剤師に求める能力



## 第二部 セッション I

テーマ「社会は、薬剤師に何を求めているのか？」

## 【方法】

KJ法を用いて議論をし、プロダクトを作成した。最初の10分程度で、メンバー個々がこれまでの学習や実習で体験したことなどから、テーマに関して考える事柄をカードに記した。その後、メンバー全員でカードの内容を読み上げ、記入者本人が補足の説明をし、それぞれのカードを似た者同士に分類わけを行った。記入されたカードの内容は、病院・薬局での実務実習における実体験や6年間の学習で感じてきたことなど、多岐に渡っていた。カードの分類わけ後に、各カードの集団（島）へ名札付けを行い、島全体を見渡して島と島のつながりや関係性を議論し、プロダクトを作成した。

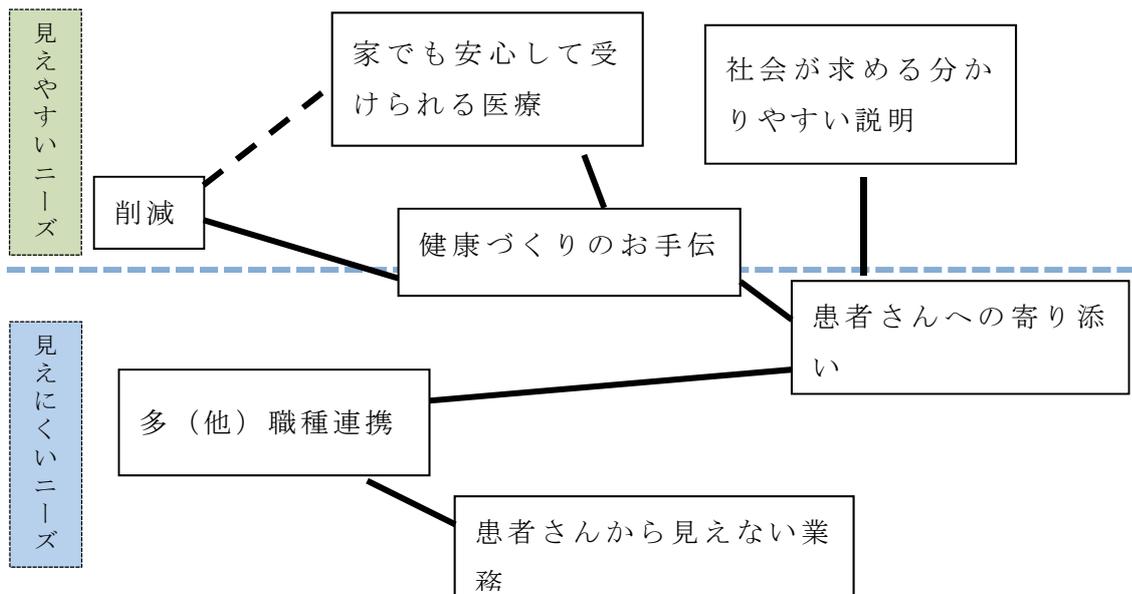
## 【議論の経緯】

すべてのカードが出揃い、島を作成したところで、医療費の削減と時間の短縮が根幹となっていること、ニーズが大きく2つに分かれていたことに気づいた。社会からの明らかなニーズ（目に見えやすい部分）と潜在的なニーズ（薬剤師として必要不可欠だが見えづらい部分）の2つである。島への名札付けの後、プロダクトを2本の柱をもとにデザインするか議論したが、見える部分と見えづらい部分があることから、「海に浮かぶ冰山」をモチーフとしたデザインにして表現することに決定した。

## 【プロダクト作成を終えて】

薬剤師の社会におけるニーズを知ることによって、どのような薬剤師を目指すべきかを明らかにすることができた。私たちのチームでは病院・薬局実習で感じた学業と実務の間におけるギャップや薬剤師の仕事における認知度の差など、様々な視点や観点から議論することができた。刻々と移り変わる社会環境や医療制度において、薬剤師としてできること、行うべきことは非常に多岐に渡り、また守備範囲を大きく拡大することができることもわかった。社会が求める薬剤師へのニーズを常に意識し、今の自分は何ができるのか、将来のためにこれから何をすべきなのか、など客観的に立場や行動を考えることができたセッションとなった。

【島の関係性】



【島の内容】

○削減

調剤時間の短縮

医療費の削減

○家でも安心して受けられる医療

在宅医療における薬の管理（残薬）

在宅での輸液調製

在宅医療の精度 UP

在宅医療から看取りまで

一包化での工夫

○社会が求める分かりやすい説明

分かりやすく丁寧な説明と服薬指導

副作用の初期症状のわかりやすい説明

副作用の発見力と対応力

グローバルに対応できる服薬指導

医療の質問には何でも答えられる

いつ・どこでも対応してくれる迅速さ

○健康づくりのお手伝い

効率的な薬物治療

患者に合った選択肢の提供

薬剤に関する豊富な知識

安全・安心な医薬品の供給

○患者さんへの寄り添い

患者さんからの健康相談

「患者さんのために」という気持ち

患者さんからの信頼

患者個々にあった服用方法の提案

○多(他)職種連携

他職種と情報共有・コミュニケーション

新薬についての情報提供と共有

DIの更新・共有、薬の勉強会の主催

エビデンスの供給

企業との連携

災害時などでの衛生管理

手術室への介入

○患者さんから見えない業務

エビデンスのある医療

処方鑑査

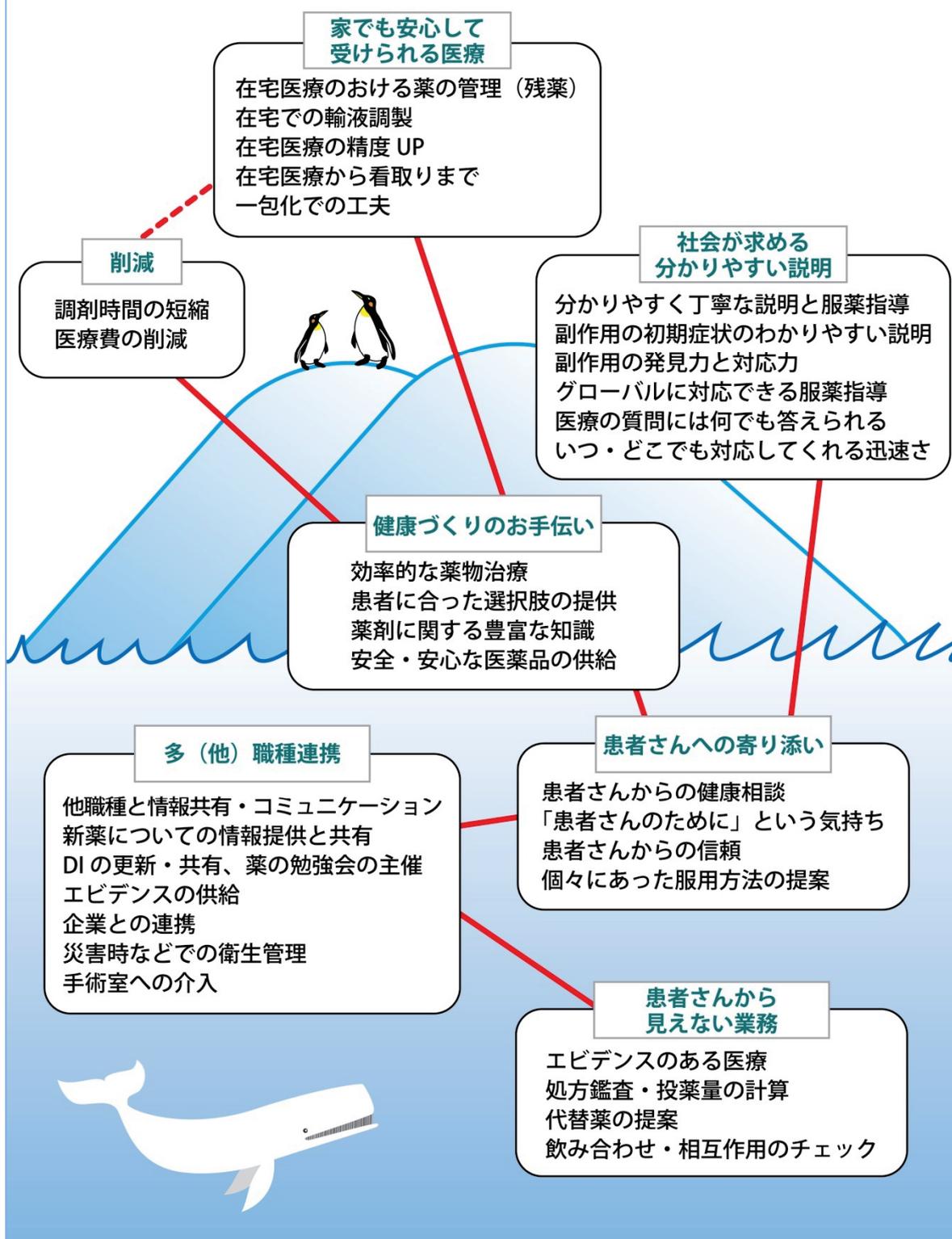
投薬量の計算

代替薬の提案

飲み合わせ・相互作用のチェック

## 社会は、薬剤師に何を求めているのか？

ⅢA班





## 【目的・方法】

第二部セッション I では、「社会は、薬剤師に何を求めているのか？」について討論を行った。KJ法により各々の考えを抽出し整理することで、社会からのニーズを共有・深化することを目的とした。

## 【議論の経緯】

「社会は、薬剤師に何を求めているか？」というテーマに基づき班員 8 人で 50 個の意見を書き出した。カードを記入した人が意図を説明することで、他の班員も意見を共有し、そこから類似した内容をまとめることで島を作った。

話し合いの末、5つの島と2つの孤独なカードに分類した。模造紙の中央には、患者やその家族にわかりやすく情報を伝える能力・コミュニケーション能力といったカードで成り立つ島を配置し「信頼できる薬剤師」と名付けた。まず何をするにあたっては患者や医療従事者に信頼してもらうことが重要であると考え中央の配置にし、その周りを囲む島に向けて矢印を伸ばした。この島には日本人だけではなく外国人に対しても対応できる薬剤師が必要とされているといった意見も属した。

他職種との連携や認知症・在宅といったニーズに対応できる力といったカードで成り立つ島には「医療の多様化に対応できる薬剤師」と名付けた。医療の進歩や高齢社会の進行といった中で個々の患者に応じたオーダーメイド医療を提供していく機会が今後より増えていくのではないかと推察した。そのような医療を提供する中で、幅広い知識がありながらも、専門性を高めた薬剤師という存在が必要とされるのではないかと考えた。

服用している薬の数を減らす、地域との関わりを増やすといったカードで成り立つ島には「医療費削減に貢献出来る薬剤師」と名付けた。地域の人が気軽に健康相談できることで OTC 推進や未病につながるといった意見が挙がった。またブラウンバック運動推進することで、重複している薬を見つけられたら医療費削減につながるといった意見も挙がった。

教育制度の改革・向上、実習生教育のカードで構成される島は「後輩育成できる薬剤師」と名付けた。社会から求められるような薬剤師はその職能を後の代にも伝えて、質の高い薬剤師を育成していくことが求められているのではないかと考えた。また、薬学生を社会の一員に含むならば、実務実習の際、薬剤師にもっと後輩となる薬学生の指導に励んでもらいたかったという意見も挙がった。

患者に薬の関心を持ってもらうというカードで成り立つ島を「薬育のできる薬剤師」とした。患者が薬を服用することの重要性を認識し、それがアドヒアランスの向上につながると考えた。

また、少数意見として、地域差のない医療の提供、機械ではできないこともできる薬剤師の2つが挙がった。離島などといった医療機関が十分でない地域がまだ存在するため、そのような地域で薬剤師が地域の健康サポートや患者の治療に関わる必要があるという意見が挙がった。また、今後薬剤師の仕事が機械に置き換わっていくことが予想されるため、

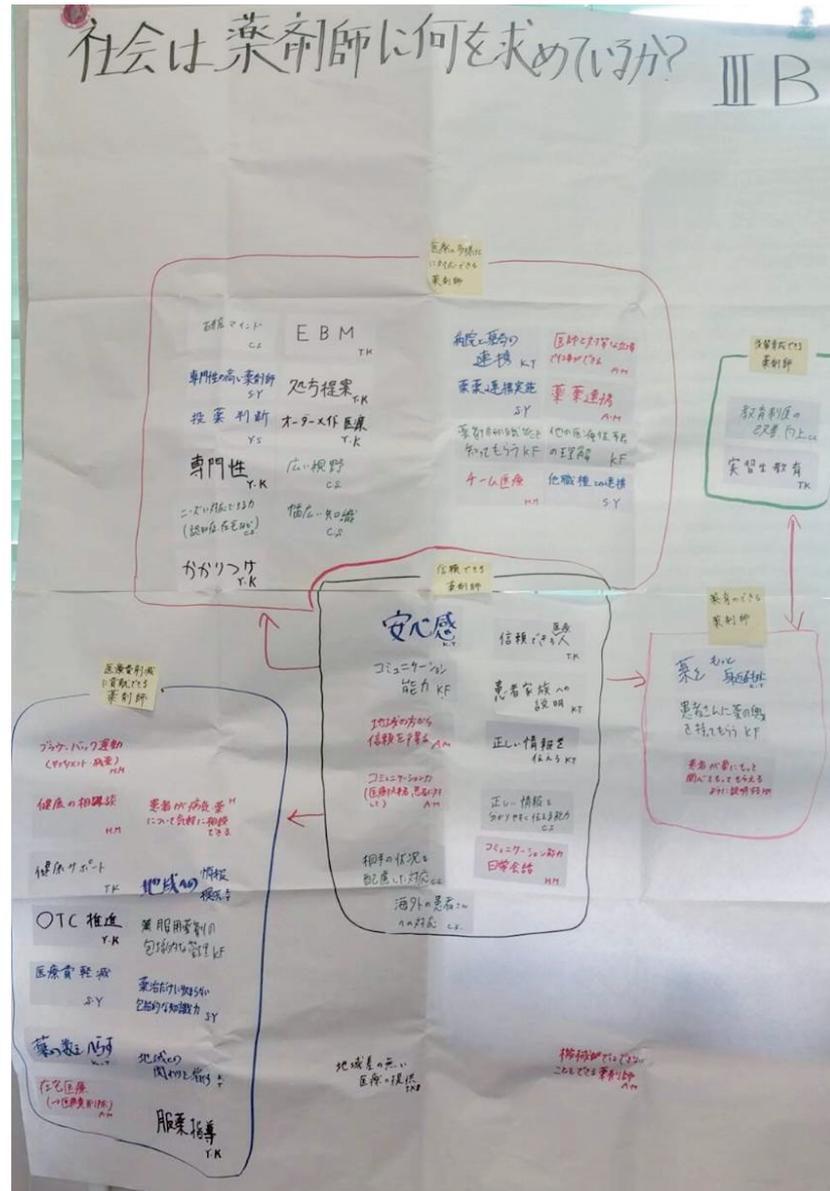
機械ではできない仕事を行っていただける薬剤師が必要であるのではないかという意見も出た。これらの意見は上記5つの島には所属しないとして孤独なカードとした。

【プロダクト内容】

島の名称	カードの内容
信頼できる薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安心感</li> <li>・ コミュニケーション能力</li> <li>・ 地域の方から信頼を得る</li> <li>・ 信頼できる医療人</li> <li>・ 患者家族への説明</li> <li>・ 正しい情報を伝える</li> <li>・ 正しい情報をわかりやすく伝える能力</li> <li>・ 日常会話</li> <li>・ 相手の状況を配慮した対応</li> <li>・ 海外の患者さんへの対応</li> </ul>
医療の多様化に対応できる薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究マインド</li> <li>・ EBM</li> <li>・ 専門性の高い医療</li> <li>・ 処方提案</li> <li>・ 投薬判断</li> <li>・ オーダーメイド医療</li> <li>・ 専門性</li> <li>・ 広い視野</li> <li>・ ニーズ(認知症・在宅など)に対応できる力</li> <li>・ 幅広い知識</li> <li>・ かかりつけ</li> <li>・ 病院と薬局の連携</li> <li>・ 医師と対等な立場で仕事ができる</li> <li>・ 薬薬連携実施</li> <li>・ 薬薬連携</li> <li>・ 薬剤師の職能を知ってもらう</li> <li>・ 他の医療従事者への理解</li> <li>・ チーム医療</li> <li>・ 他職種との連携</li> </ul>
医療削減に貢献できる薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブラウンバッグ運動</li> <li>・ 健康相談</li> <li>・ 患者が病気・薬について気軽に相談できる</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康サポート</li> <li>・地域への情報提供</li> <li>・O T C 推進</li> <li>・服用薬剤の包括的な管理</li> <li>・医療費軽減</li> <li>・薬治だけに収まらない包括的な知識力</li> <li>・薬の数を減らす</li> <li>・地域との関わりを増やす</li> <li>・在宅医療</li> <li>・服薬指導</li> </ul>
後輩育成できる薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育制度の改善・向上</li> <li>・実習生教育</li> </ul>
薬育のできる薬剤師	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬をもっと身近なものに</li> <li>・患者さんに薬に興味を持ってもらう</li> <li>・患者が薬にもっと関心をもってもらえるように説明する</li> </ul>
孤独なカード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域差のない医療の提供</li> <li>・機械ではできないこともできる薬剤師</li> </ul>

【プロダクト】



【目的・方法】

第二部は「これからの医療や社会に貢献するために、私たちに必要なものは何か？」をテーマに、セッションⅠ「社会は、薬剤師に何を求めているか？」について KJ 法を用いて議論した。社会が薬剤師に求めていることを各自で考え、カードに記載し、同じような内容のカードを一つの島として考えた。その内容を以下に示す。

誰よりも親しみやすい薬剤師

- ・ 寄り添う姿勢
- ・ 相談のしやすさ
- ・ 患者との関わり
- ・ 同じ目線
- ・ 患者からの信頼
- ・ 親しみやすさ
- ・ あたたかさ
- ・ 開いた空気
- ・ 信頼
- ・ 優しさ
- ・ 薬剤師の仕事内容

正しい情報の提供

- ・ 情報の整理
- ・ 伝える力
- ・ 医療の一員
- ・ 他医療者との協力
- ・ 情報伝達能力
- ・ わかりやすさ
- ・ 他職種との連携
- ・ 専門性

倫理性

- ・ 常識
- ・ 倫理性
- ・ 医療人としての自覚
- ・ 倫理観
- ・ 人間らしさ

医療費削減

- ・ 在宅支援
- ・ 地域への介入
- ・ 地域連携
- ・ 地域の関わり
- ・ 地域連携
- ・ 在宅医療
- ・ 地域性
- ・ 地域との距離

薬のことは薬剤師に!!

- ・ 勤勉さ
- ・ 薬の専門家としての知識
- ・ 薬の知識
- ・ 知識と教養

テーラーメイド（孤立）

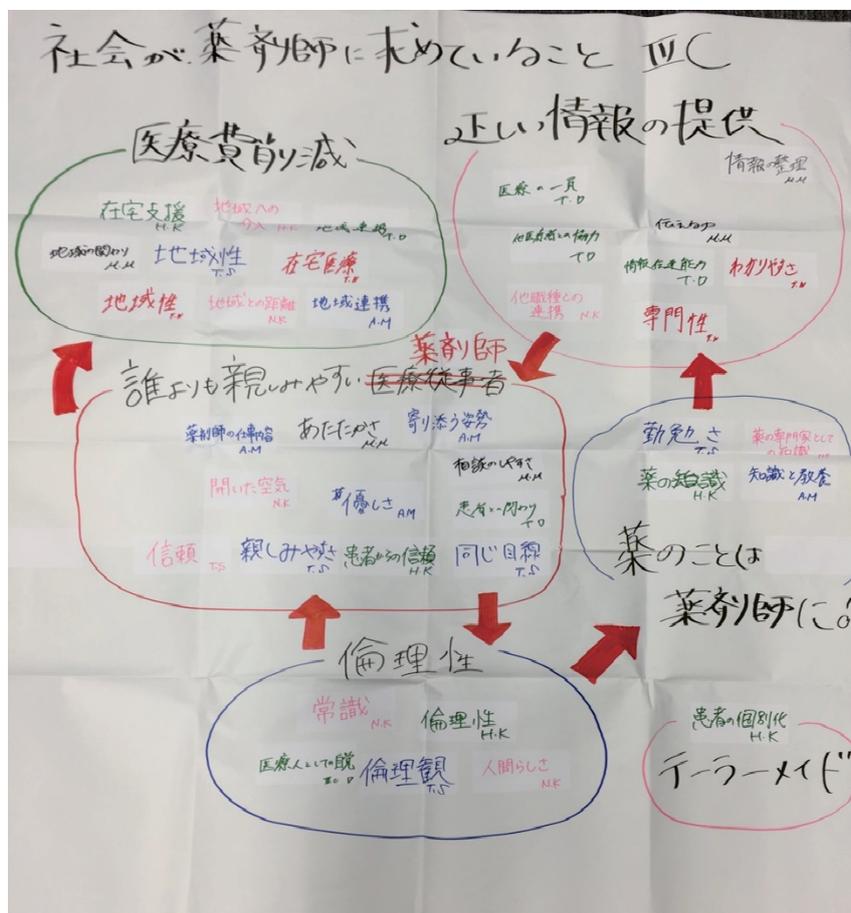
- ・患者の個別化

【議論の経緯】

第二部セッション I では「社会は、薬剤師に何を求めているのか？」について、KJ法を用いて各自が考える要件をカードに書き出した。その後、カードを記入した人がどのような意図で書いたのかを述べながら全員で1枚ずつカードを見ていった。この作業によって、言葉が似ているカードであっても、各自がカードに込めた意図に近いものを集めることができ、情報の整理ができた。

情報の整理により、『誰よりも親しみやすい薬剤師』『正しい情報の提供』『倫理性』『医療費削減』『薬のことは薬剤師に!!』の島と、孤独なカードとなった『テーラーメイド』の計6つに分けられた。各々が考えたカードに同じ言葉が書いていることもあったが、書き手の想いに違いがあり、様々な視点で考えることができた。

次に、島同士の関係性を考えていった。島の名前だけでなく、それぞれが記載したカードの意図と関連させて、島のつながりを考え、プロダクト内に赤矢印で示した。III C 班では、『誰よりも親しみやすい薬剤師』を中心として島同士の関係性を考えていった。薬局薬剤師のように、病院以外の場で医療人と接することができれば、患者のセルフメディケーションにもつながり、結果的に『医療費削減』につながると思った。また、誰よりも親しまれる薬剤師になるためには、薬学的知識のみならず、人としての倫理性を持つことが必要になると考えた。以下に完成したプロダクトを示す。



## 第二部

「これからの医療や社会に貢献するために、  
私たちに必要なものは何か？」

### セッションⅡ

「社会のニーズを満たす薬剤師は、  
どんなことができるか？」



## 第二部 セッションII

社会のニーズを満たす薬剤師は、  
どんなことができるか？

第一部では、  
World Café

### 私たちの進路と夢

- ・医療現場で印象に残っている場面
- ・6年間の学習で身に付いたこと・やれたかったこと
- ・私たちの進路と夢

第二部セッションIでは、  
KJ法

これからの医療や社会に  
貢献するために、  
私たちに必要なものは何か？

社会は、薬剤師に  
何を求めているのか  
抽出と整理ができました

社会のニーズを満たす薬剤師は、  
どんなことができるか？

これからの作業は、

1. 司会、記録、発表、報告書担当の4役を決める
2. KJ法のプロダクトの見直し：  
鳥の名札(ニーズ)を確認する

社会のニーズを満たす薬剤師は、  
どんなことができるか？

3. ・KJのプロダクトを見て、ニーズをリストアップ
  - ・ニーズを一つ以上、選択
  - ・選んだニーズを満たす薬剤師は、どんなことができるかを文章で表現
  - ・6年間の学修で、自分たちができるようになったことをグループで話し合い文章で表現



社会のニーズを満たす薬剤師は、  
どんなことができるか？ ●—■班

ニーズ	ニーズを満たす薬剤師は、 どんなことができるか？	6年間の学修で、自分たち ができるようになったこと
○○○○	□□□□□□できる	△△△△△△△△できる

**作業時間は100分間**

**17:10 集合**

・発表5分 + 質疑5分 × 3班

・発表順 **B ⇒ C ⇒ A**

## 第二部セッションⅡ 「社会のニーズを満たす薬剤師は、どんなことができるか」

### 議論の経緯

第二部セッションⅠにおけるKJ法のプロダクトより、社会のニーズを満たす薬剤師は以下の3点が重要だと考え、討論を行った。

- ・ 病気を未然に防ぐこと
- ・ 副作用マネジメントができること
- ・ 個別化医療に対応できること

### 各プロダクトと詳細

ニーズ	ニーズを満たす薬剤師ができること	6年間でできるようになったこと
病気を未然に防ぐ	①処方箋を持たない人でも相談可能	・ OTC 医薬品の知識（個人差あり）
	② OTC 医薬品の勧奨	
	③ バイタルの知識（測定法、結果の解釈）	・ バイタルの知識がある
副作用マネジメント	① 服薬状況の確認	・ 服薬状況の確認ができる
	② 最新情報の収集と活用	・ 情報源を知り、収集できる
	③ システムの構築	
	④ リスクベネフィット評価 （処方継続・変更の提案）	
	⑤ 患者への聞き取り ・ 優先順位をつけ、質問 ・ 適切な聞き方ができる	・ 実習により体験済み
個別化医療	① 耐性が出現した際の原因調査・対応	・ ガイドラインに沿った対応
	② 症状や処方意図に合わせた薬情・説明	
	③ PKの考慮	・ PKの知識はある
	④ 他職種との情報共有ができる ・ カンファレンスへの参加	
	・ 他職種との信頼関係構築	

セルフメディケーションの推進や医療費削減が叫ばれている中、薬剤師が社会に求められることとして、病気を未然に防ぐことが挙げられた。処方箋を持たない人でも気軽に相談でき、OTC 医薬品で対応可能であれば適切な OTC 医薬品を推奨し、対応不可能であれば受診勧奨を行うことのできる薬剤師がこれからの社会のニーズに合った薬剤師であるのではないかという意見が挙げられた。6年間を通してできるようになったこととして、OTC 医薬品やバイタル知識がついたことが挙げられたが、OTC 医薬品の知識については大学のカリキュラムの違いにより、知識量に大きく差があることが分かった。

次に、薬剤師が求められることとして、副作用マネジメントができることが挙げられた。服薬状況の確認はもちろんのこと、リスクベネフィット評価により、適切な処方提案ができる能力が求められるのではないかと考え、そのためには、患者への症状の聞き取りの際には、質問の優先順位を予め明確にしておき、適切な質問ができる能力が必要とされるのではないかという意見が挙げられた。

最後に、薬剤師が社会に求められることとして、個別化医療に対応できる能力を持つことが挙げられた。薬剤耐性が発生した際には、早急な原因究明と対応ができることが必要であるという意見が挙げられた。また、医師の処方意図を適切に読みとり、たとえ適応外処方であっても、薬情通りの服薬指導ではなく、医師の意図に合った服薬指導を行うことができる薬剤師が社会に求められるのではないかと意見が挙げられた。そのためには、日ごろからカンファレンスに参加したり、挨拶をしたりすることで他職種との信頼関係を築き、患者の情報をスムーズに収集できる環境を作れる能力も必要ではないかとの意見も挙げられた。

また、6年間でできるようになったことについて空白にしている部分は、これから現場に出て実践を通して経験から得られるものである。

## 総括

社会のニーズを満たす薬剤師はどんなことができるかという議題であり、多くの意見が挙げられた。私自身では思いつかないような意見も多く挙げられ非常に有意義なディスカッションであった。また、議論を続ける中で、今の自分達にはできないこと、足りないことに多く気づかされ、今後、目指すべき薬剤師像がより具体的になった。

第二部セッション I 「これからの医療や社会に貢献するために、私たちに必要なものは何か？」では、KJ 法を用いて社会が薬剤師に求めること（ニーズ）についての抽出と整理を行った。セッション II ではセッション I の内容を踏まえ、これらのニーズを満たす薬剤師はどのようなことができるのか、また、6 年間の学修によって自分たちはどのようなことができるようになったのかについて議論を行った。

#### <議論の経緯>

##### 1) KJ 法のプロダクトからニーズをリストアップ

セッション I では KJ 法の「島」として様々なフレーズが挙げられた。これらのフレーズから着想を得て、薬剤師のニーズについて議論した。

まず、薬剤師は病院、保険薬局などの医療施設だけでなく、日用品なども販売していることもあり比較的立ち寄りやすいドラッグストアなどでも患者さんと接する機会があるため疾病の一次予防に貢献できる存在であること、また、一次予防に貢献するためには患者さんとのコミュニケーションが重要になることから、「患者さんを知る」、「身近さ」、「健康の維持」を統合し、ニーズ「不安の除去」とした。

次に、6 年制教育を受けた薬剤師は必ず病院、薬局の両方で実務実習を行っているため、医療全体を見渡せる存在であること、また、高度な薬学的知識を用いて患者-医師間、医療従事者-医師間の情報のギャップを埋めることのできる存在であることから、「医療人同士の情報の共有」、「専門的な知識を使う」を統合し、ニーズ「シームレスな医療」とした。

なお、議論を通じて、薬剤師の職能が国民に対して、まだ十分に周知されていないのではないかと、そうであるならば国民から薬剤師へのニーズも生まれにくいのではないかとという疑問が生じたことを付け加えておく。

##### 2) ニーズを満たす薬剤師にできること

###### 不安の除去

コミュニケーション能力に長けた薬剤師は、患者さんが未病あるいは軽症の段階からしっかりコミュニケーションを積み重ねていくことで、まず患者さんにとって身近な存在となることができる。こうして患者さんの普段の様子を知ること、表情や声調に普段との変化があった時に気づき、それをきっかけに患者さんの話を聞いて受診勧奨などの対応を取ることもできる。自分の変化を感じ取ってもらえた患者さんは「この薬剤師は自分のことをしっかり見ていてくれているんだ」と安心できる。こうして薬剤師は単なる身近な存在としてではなく、健康の維持・増進について相談できる医療人としての信頼を得ることができる。

## シームレスな医療

6年制教育を受けた薬剤師は必ず病院、薬局の両方で実務実習を行っているため、様々な立場から医療現場全体を見渡せる。薬局には今後地域医療への益々の貢献が期待されており、薬剤師はその広い視野を活かして病院から地域へのシームレスな移行における架け橋のような存在になることができる。また、チーム医療における多職種連携でのシームレスな情報共有という点においても力を発揮できる存在である。高度な薬学的知識という自身の専門性によって、医療上の問題を薬剤師ならではの視点から解決できる。

### 3) 自分たちができるようになったこと

患者さんの不安を除去するために

病院・薬局実習を通して、医療現場で実際に取られる選択肢は個々の患者さんの状況に応じて様々であることを実感した。その結果、実習経験前の教科書通りの対応に囚われすぎない柔軟な発想ができるようになった。

先輩薬剤師のコミュニケーション技術を参考にして取り入れることで、患者さんに心を開いてもらうための手法の引き出しが増えた。

また、これらの選択肢を選び取る上での基礎となる知識についても深めることができた。

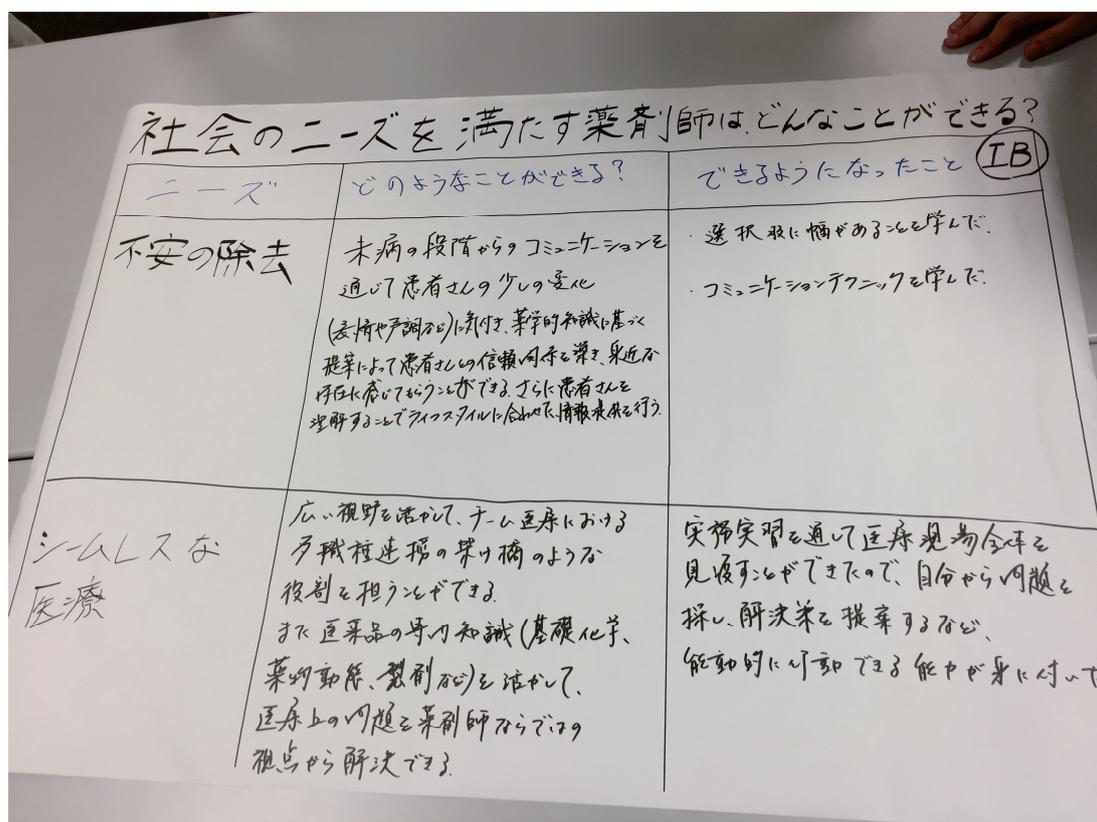
シームレスな医療を提供するために

病院・薬局というそれぞれに特徴を持った医療施設での実習を経験して、複数の立場からの医療現場の見方を身に付けた。その結果、様々な問題点に気づき、それぞれの現場の特徴を把握した上での問題の解決策の提案ができるようになった。

また、臨床の現場を経験したことで医療人としての自覚が高まり、能動的に行動する態度が身に付いた。

<プロダクト>

ニーズ	どのようなことができる？	できるようになったこと
不安の除去 ・患者さんを知る ・身近さ ・健康の維持	未病の段階からのコミュニケーションを通じて患者さんの少しの変化(表情や声調)に気付き、薬学的知見に基づく提案によって患者さんとの信頼関係を築き、身近な存在に感じてもらうことができる。 さらに患者さんを理解することでライフスタイルに合わせた情報提供を行う。	選択肢に幅があることを学んだ結果、柔軟な対応ができるようになった。 コミュニケーションテクニックを学んだことで、個々の患者さんに応じた対応ができるようになった。
シームレスな医療 ・医療人同士の情報の共有 ・専門的な知識を使う	広い視野を活かして、チーム医療における多職種連携の架け橋のような役割を担うことができる。 また、医薬品の専門知識(基礎化学、薬物動態、製剤など)を活かして医療上の問題を薬剤師ならではの観点から解決できる。	実務実習を通じて医療現場全体を見渡すことができたので、自分から問題を探し解決策を提案するなど、能動的に行動できる能力が身についた。



第二部セッションⅠにおいて、「社会が薬剤師に何を求めているか」について、KJ法で意見を出し合った。セッションⅡでは、セッションⅠで出し合った社会のニーズについて、「社会のニーズを満たす薬剤師は、どんなことができるか？」について意見を出し合った。I C 班では、薬剤師には患者さんの気持ちを受け止める器が必要で、話をしやすい距離感や雰囲気を保つこと、信頼感が必要であることから、「患者さんの気持ちに寄り添った服薬指導」を主なニーズとして捉えた。このニーズを満たすことで、何ができるようになるかを議論し、以下の4つの項目について実施できるようになると考えた。

- ① 気持ちを聞き出し、受け止め、共感し、それを処方提案できる。
- ② 多職種とのシームレスな情報共有ができる。
- ③ 相談しやすい環境を提供できる。
- ④ 患者さんの健康をサポートできる。

それぞれに関して、【議論の経緯】と【6年間の学修を通じてできるようになったこと】について、以下にまとめる。

- ① 気持ちを聞き出し、受け止め、共感し、それを処方提案できる。

#### 【議論の経緯】

薬剤師は、患者さんから話を聴くことで、治療効果の確認や副作用発現状況を把握するとともに、治療についての不安や疑問点についても話をしてもらい、治療にフィードバックする必要がある。そのため、傾聴や共感と言ったコミュニケーション能力が必須である。会話を通してキャッチした情報を考慮して、適切な助言や処方提案につなげていかなければならない。会話を通じた「ゲートキーパー」の役割を果たすことで、治療効果確認、副作用発現把握、不安解消、助言及び処方提案などが可能となる。

#### 【6年間の学修を通じてできるようになったこと】

- ・実務実習を通して、医療者側の立場から患者さんが求めていることを読み取ることができるようになった。これまでは、患者さんの目線でしか医療現場を見ていなかったが、実習施設で患者さんに対応する様子を見学し、実際に体験することで、単なる人対人ではなく、患者さん対医療従事者であることを強く意識して対応しなければならないことが分かった。
- ・処方箋記載事項で、用法間違いや規格未記載に気付き、疑義照会を行うことができた。
- ・副作用の話を患者さんから聴くことで、人によって副作用に対する考え方が異なることを実感できた。また、添付文書に記載のない副作用を気にしている患者さんがいたため、直接製薬会社に問い合わせたところ、添付文書に記載していないがその患者さんの訴えに該当する副作用の報告例がごく少数あることを確認できた。

## ② 多職種とのシームレスな情報共有ができる。

### 【議論の経緯】

現在の医療では、医師や看護師だけに任せるのではなく、様々な職種で患者さんの治療に貢献することが求められている。そのため、それぞれの職種が自身の専門だけにこだわってはい、情報を共有できない。他の職種にも分かるような言葉で説明し、記録することが求められる。また、他の職種の業務内容についても理解できるようにならなければならない。薬剤師が薬の専門家として、薬のことを多職種に分かりやすく伝え、かつ、多職種の職務について理解を深めていくことで、継ぎ目のないシームレスな情報共有に貢献することができるようになる。シームレスな情報共有によって、患者さんに対して「**質の高い医療を提供する**」ことが可能になる。

### 【6年間の学修を通じてできるようになったこと】

- ・実務実習で薬歴を記載する際に、専門用語の列挙ではなく、他の職種の人が読んでも分かるように記載することができるようになった。
- ・服薬指導時に、多職種連携を意識した情報提供ができるようになった。
- ・お薬手帳や電子カルテの記録から、様々な職種の記録を読み取り、患者さんの状態を把握することができるようになった。

## ③ 相談しやすい環境を提供できる。

### 【議論の経緯】

患者さんの気持ちに寄り添うことができる薬剤師は、患者さん側から見ても話しやすく、頼られる薬剤師になることができる。その結果、気軽に薬局に立ち寄って、健康相談、治療や薬の相談および健康食品やサプリメントの相談などを受け付けることが可能になる。病院や診療所で言えなかったことでも、薬剤師には相談することができるようになるかもしれない。薬剤師に話しやすくなること、つまり「**患者さんの身近な存在となる**」ことで、これまで以上に患者さんの状況（副作用発現や残薬など）に気付くことができるようになる。

### 【6年間の学修を通じてできるようになったこと】

- ・患者さんが話しやすいように、オープンクエスションとクローズドクエスションを使い分けて対応できるようになった。また、うなずきやあいづちを交えたり、ちょっとした一言を添えたりすることができるようになった。
- ・患者さんからの質問に対して、ネット上の情報でなく添付文書やインタビューフォームなどにもとづいて、根拠を持って対応ができるようになった。

## ④ 患者さんの健康をサポートできる。

### 【議論の経緯】

- ①～③のことが実行できれば、「**患者さんの健康をサポートできる**」ような薬剤師になる

ことができる。未病の段階から患者さんに関わることで、結果的に患者さんの健康の維持・増進に寄与し、また、疾病の予防や重症化を防ぐことに貢献できる。

【6年間の学修を通じてできるようになったこと】

- ・カルテ上の検査値や身体所見から、患者さんの状態を推測できるようになった。
- ・情報提供の際、正確な情報源や文献を選択し、内容を理解できるようになった。そして、理解した内容を、患者さんや他の医療従事者に正確に情報提供できるようになった。

社会のニーズを満たす薬剤師は？		IC
ニーズ	ニーズを満たす薬剤師は、どんなことができるか？	6年間の学修で自分たちができるようになったこと
患者さんの気持ちに寄り添った健康サポート (患者さんの健康に能動的にコミット)	気持ちを聞き出し、うけとめ、共感し、それと処方提案する →ゲートキーパーになる	・医療者の立場から患者さんが求めることを読みとれる。 ・疑義に気がつく。 ・添付文書に「よい副作用とメーカーに問い合わせできる。
	多職種種との情報共有ができる シームレスに →質の高い医療を提供する 相談しやすい環境を提供できる →患者さんの身近な存在になる	・薬歴やカルテを分かりやすいように書く。 ・多職種種との連携を意識できる。 ・お薬手帳やカルテから情報を読みとれる。 ・相談と持てこたえられる。 ・オープンエディションとクローズドエディションを使い分けることができる。
	患者さんの健康をサポートできる。	・検査値、身体所見から患者の異常と把握できる。 ・正確な提案ができる。 な情報

図 作製したプロダクト

第二部セッション I では、「社会は、薬剤師に何を求めているのか？」について KJ 法を用いて討議したことを基に、セッション II では「社会のニーズを満たす薬剤師は、どんなことができるのか？」というテーマで議論し対応策を考えた。

まず、第二部セッション I での「社会は、薬剤師に何を求めているのか？」では KJ 法により、「連携の強化」「社会的問題の解決」「医療費削減」「地域医療の向上」「利便性の向上」「薬の専門家として責任」の 6 つの薬剤師へのニーズの島ができた。

それらの島の中から「社会的問題の解決」を抽出した。(プロダクト 1) その理由として、服薬過多の減少、ベッド数の削減といった“医療費の削減”やセルフメディケーションの向上、健康フォーラムといった“薬学的知識の教授”という社会的問題の解決を行うことでその他の社会が薬剤師に求めるニーズを満たせると考えたからである。さらに私たちは、“医療費削減”、“薬学的知識の教授”を行うためには薬剤師にはどんなことができるか、また 6 年間の学修で自分たちができるようになったことについて討議した。

社会のニーズを満たす薬剤師はどんなことができるか? II-A		
ニーズ	ニーズを満たす薬剤師は、 どんなことができるか?	6年間の学修で、自分たちが できるようになったこと。
社会的問題の 解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>信頼関係を構築し、IT等の技術を用いて医療連携を活用し、 患者の状況(残薬・稽生・環境・性格)を把握する。</li> <li>医療従事者あるいは、患者に適切な薬学的知識を教授することで、 医療費の削減に貢献する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>信頼関係を構築するための共感的理解</li> <li>基礎的なスキルアセスメント</li> <li>基礎的な薬学的知識の修取</li> <li>個々の患者への適切な基礎的な薬学的知識提供(=眼判)</li> <li>多職種との連携の必要性に気付いた</li> </ul>
<医療費の削減>		
<薬学的知識の教授>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新の知識を入手し、取捨選択の上で信頼関係を構築し、患者のニーズを把握しわかりやすい表現で薬に対する興味を持たせることで、患者の知識レベルを向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新の知識の入手方法(情報の確認)</li> <li>わかりやすい表現(シスチン、ホテラシ)</li> <li>薬に興味をもたせる必要性に気付いた</li> </ul>

プロダクト 1

次に対応策を議論し、その結果を以下にまとめた。

<ニーズ：社会的問題の解決>

I) ニーズを満たすために薬剤師ができること

1. 医療費の削減

- ・信頼関係を構築して、IT等の技術を用いて医療連携を活用し、患者の状況（残薬、本

音、生活環境、性格)を把握する。

理由：地域間あるいは病院・薬局・ケアマネージャー間での医療連携が希薄なため IT 技術を活用し患者が緩和ケアや在宅療養場所が変わっても円滑に医療を受けることができるネットワーク構成する。また、患者との信頼関係を結び構成されたネットワークを利用することで薬学的アセスメント（薬物相互作用、有害事象の早期発見等）を共有する。すなわち、患者を医療の中心に置き、医療従事者が包括的に医療を行うことで伝達ミス等のヒューマンエラーで生じる医療費のムダを未然に防止することができると考えた。

- ・医療従事者あるいは患者に適切な薬学的知識を教授することで医療費の削減に貢献する。

理由：薬学的知識を（薬物相互作用、有害事象の早期発見等）医療従事者に教授し、薬剤師が医療提案、治療薬の精査を行う。そうすることで、薬剤師も積極的に医療に参画し普遍的な医療ではなく、個人に適した医療を行うことで医療費の削減に貢献できると考える。また、患者が患う疾患の特徴やその治療に用いる薬学的知識（副作用、用法・用量、有効性等）を教授することで患者自身の疾患に興味を持たせ、アドヒアランスの向上さらには治療効果向上に寄与できるのではないかと考えられる。すなわち、患者が受動的に治療に参加するため副作用の防止・早期発見、薬の紛失等の余計な医療費を削減できると考えた。

## 2. 薬学的知識の教授

- ・最新の知識を入手・考察し、取捨選択した上で信頼関係を構築し、患者のニーズを把握してわかりやすい表現で薬に対する興味を持たせることで、患者の知識レベルを向上させる。

理由：チーム医療で献身的に患者を治療しても患者自身が受動的な態度や治療に関して無関心であれば、治療効果に限度があると考えた。

→患者自身の疾患についての知識レベルが低いことが問題点として提起された。

対応策を以下に示す。

### i) 自己研鑽

- ・学会やセミナーに積極的に参加し、様々な最先端の医療知識を備える。
- ・研究活動を行い判断力、考察力、発信力を養い、その能力を臨床応用する。  
→自らの知識レベルを常に最先端のものにし、他人に分かりやすく伝える。

### ii) 患者自身の疾患へ興味を抱かせる

- ・患者との信頼関係を構築する。  
→患者との信頼関係を構築するためには、コミュニケーション能力を高める必要がある。これは単に話しやすい人柄になるという意味ではなく備えた知識を教授することを心掛け、献身的に疾患についての疑問を解決し、献身的な姿勢で患者と接する事であると考えた。

### ・積極的介入

→積極的介入とは健康フォーラムや地域住民対象のセミナーを開催することである。定期的に健康や病気の事について学べる場所を提供し、少しでも病気、健康の事を身近に感じて欲しいと考えた。また、セミナー等の広報はデザイ

ナーを雇用し見栄えの良いポスター作成し、興味を抱かせた方が良いという案もあった。

## II) 6年間の学修で社会のニーズを満たすためにできるようになったこと

### 1. 【医療費の削減】

- ・信頼関係を構築するための共感的理解

理由：既往歴や薬歴、患者の性格を把握し服薬指導を行うことで、患者心理を理解することができ、より親身なコミュニケーションが取れ、アドヒアランス向上に寄与できると考えた。信頼関係を結ぶことにより、患者の処方薬の管理・整理（過不足のチェック）、セルフメディケーションのアドバイス、健康相談（栄養指導等）ができた。

- ・基礎的なフィジカルアセスメント

理由：疾患に関係するバイタルサインや患者の表情や声色、また投薬時の身体に生じる特徴的な有害事象を逐一観察することで疾患の悪化や有害事象を未然に防ぐことができる。

- ・基礎的な薬学的知識の修得

理由：薬の特徴（作用機序、用法・用量等）等の薬学的知識や患者コミュニケーションを、処方提案や日々の処方薬のアセスメントに応用することで、処方薬の必要性・妥当性の判断をできるようになった。

- ・個々の患者への適切な基礎的な薬学的知識提供

理由：学んだ薬学的知識を患者に提供することで患者に自身の疾患へ興味を抱いてもらう事で、コンプライアンスを改善し、医療のムダ（残薬の発生等）を防ぎアドヒアランスの向上にも寄与できるため。

- ・他職種との連携の必要性への気づき

理由：チーム医療で患者を包括的に治療していく際に薬剤師の職能を自ら理解し、その能力をチーム医療にフィードバックすることで、患者にベストな医療を提供できると感じたため。

### 2. 【薬学的知識の教授】

- ・最新の知識の入手方法（情報の確かさ）

理由：学会に参加したり論文を読み最先端の医療情報をインプットすることで、臨床で適切な医療情報を患者に提供、また、他の医療従事者に情報提供できると考えた。

- ・わかりやすい表情（ジェスチャー、ボディーランゲージ）

理由：患者の身体状況や心境を把握した上で、患者との目線や献身的な態度、口調、表情等に気を配り、患者との関係性を友好に保つと伝えたい情報を円滑に伝えることができると思ったため。また、手話や英会話を習得することで、さらに多くの患者に備えた知識を発信できると考えた。

- ・薬に興味をもたせる必要性に気付いた

理由：患者自身が治療に受動的であれば服薬コンプライアンスも低下し、期待する治療効果を望めないと感じたため。

【議論の経緯】

第二部セッション I の KJ 法で挙げた社会が薬剤師に求めていることの中で、様々なニーズの最も基礎となったコミュニケーション能力について討論を進めた。

まず、コミュニケーション能力がある薬剤師であれば、何が出来るかについて考えた。実習を振り返り、コミュニケーション能力が高い薬剤師は何が出来ていたか、また、それ以外でも何が出来るレベルが望ましいのかについて列挙していった。一人一人にあった指導ができる、わかりやすい説明ができる、家族のケアも可能である、他職種と連携することができるなどが挙げた。しかし、ここで、本当にこれが望ましいレベルであり、今の我々にはできていないことであるのかについて検討した。その結果、ある程度であれば我々にもできることなのではないかという結論に至り、再度、本当に望ましいレベルについて考え、同時に今の我々のレベルと本当に差があるのかについて検討していった。また、コミュニケーションと言っても、薬剤師と誰との間におけるコミュニケーションであるのかがはっきりとしていたほうがわかりやすいと考え、望ましいレベルとして列挙したコミュニケーション能力を薬剤師と薬剤師間のコミュニケーション、薬剤師と他職種間のコミュニケーション、薬剤師と患者・家族間のコミュニケーションの3つに分類してプロダクトを作成した。

社会のニーズを満たす薬剤師は、どんなことができるか? II

ニーズ: コミュニケーション能力

	薬剤師はどんなことができるか	自分たちができるようにすること
薬剤師→薬剤師	地域レベルでの情報共有 → 薬剤(新薬、適応外など) 患者情報	施設内での情報共有 → 患者情報のみ
薬剤師 ↔ 他職種	疑義照会(適応外使用、多剤併用など) 他職種からの質疑応答 情報提供(TDM, 検査値, カルテ) カンファ(参加→意見) → 次回の処方へ生かす。	疑義照会(添付文書・JF) 情報提供(添付文書・JF) カンファ(見学)
薬剤師 → 患者・家族	終末期ケアに積極的に関与 → 緩和ケア, グリーフケア 短時間で患者情報を適切に引き出し その後の対応もできる。 専門用語をかき取るなど分かりやすく 説明	気軽に話せる。 情報の引き出し方は OSCE レベル。(共感することはできる。) 専門用語を理解するまで。 (説明は難しい。)

## 詳細

### 薬剤師↔薬剤師

- ・情報共有をする際、カルテから得られる患者情報のみでなく、新薬や適応外の薬剤についても話すことが望ましいが、我々はカルテから得られる患者情報についてのみしか話せないのでコミュニケーションを深くとることができない。また、共有する範囲は地域レベルであることが望ましいが、今の自分たちは、施設内でしか共有をすることができない。

### 薬剤師↔他職種

- ・TDM、検査値、カルテからの情報をもとにしたり、適応外処方や多剤併用時にも疑義照会や情報提供することでコミュニケーションをとれることが望ましいが、学生である現段階では添付文書やインタビューフォームから得られる内容についてしか話すことができない。
- ・カンファレンスにおいて、参加し、意見することが望ましいが、学生は見学しかできず、コミュニケーションをとることは難しい。

### 薬剤師↔患者・家族

- ・終末期に積極的に関わり、緩和ケアやグリーフケアをしていくことが望ましい。我々にはこういったケアをしながらのコミュニケーションは難しいが、患者からしたら学生のほうが気軽になんでも話すことができるかもしれない。
- ・患者から情報を聞き出す際、短時間で質の高い情報を得るコミュニケーションをとることが望ましいが、我々の情報収集はOSCEレベルである。共感をすることはできる。
- ・専門用語を正しく理解し、かみ砕いて説明することが望ましいが、我々は専門用語を理解していても、伝える力はまだない。

## 背景

第二部セッション I において、「これからの医療や社会に貢献するために自分たちに必要なもの」に関して話し合い、社会が今後、薬剤師に対して何を求めているのか、KJ法を通して考え整理した。

### セッション I のプロダクト見直し：作成した島のニーズの確認、ニーズのリストアップ

セッション I において挙げたニーズは以下のとおりである。これより我々は「地域に根差した医療」に関して着目し、リストアップを行うことでディスカッションを進行した。

- 地域に根差した医療
- 高度薬学管理機能
- 在宅医療
- コミュニケーション能力
- セルフメディケーション
- 薬剤師への親しみやすさ
- 社会に情報を発信していく能力
- 環境衛生の管理

など

※下線はリストアップしディスカッションの対象としたニーズである。

#### ・地域に根差した医療を選択した経緯

後期高齢者が増加する中、内閣府が出典している「高齢者の健康に関する意識調査」では多くの方が最期を迎えたい場所に関して自宅を希望している。しかし現状で見ると多くの方が病院で亡くなっている。病院完結型の医療から地域完結型の医療へ移行しなければならない中で薬剤師が地域に貢献し、在宅医療をはじめ様々な健康に対するサポートを地域住民に対して行うことが必要であると我々は考えた。「地域に根差した医療」の他に「在宅医療」や「セルフメディケーション」などそれに沿ったニーズも多数挙げられたことから「地域に根差した医療」を選択するに至った。

### ディスカッション経緯

はじめに「地域に根差した医療」が非常に抽象的であったため具体性を出すために地域に根差した医療に関してグループ内で討議することになった。結果、以下に示す5項目に分けることとした。

- ① 健康サポート機能を有する
- ② 在宅医療を行う能力

- ③ セルフメディケーション推進
- ④ 災害時における薬剤師としての貢献
- ⑤ 病院-薬局間での連携（薬薬連携）

限られた時間内での SGD であったため、今回はさらに「在宅医療」及び「薬薬連携」について焦点を絞り議論を行った。II C 班で作成したプロダクトに関しては以下の通りである。

ニーズ	薬剤師ができること	自分たちのレベル
地域医療における在宅医療	患者さんの生活背景や治療経過、コンプライアンスを正確に把握し、適切な総合判断を他職種にフィードバックできる。	患者さんの生活背景や治療経過、コンプライアンスを把握できる。
地域医療における薬薬連携	他施設からの情報収集により、適切な総合判断を行うことで相互作用や重複投与、有害事象などの回避のための行動をとることができる。	他施設からの情報収集や評価を行う。

薬学部が6年制となり病院実習および薬局実習をそれぞれ 11 週間設けられたこともあり、実際に実習で在宅医療を行ったことや医療機関との連携を目の当たりにしたこともあったため、患者さんの見るべき点や把握しておかなければならない点がある程度は理解できるようになったのではないかと我々は考えた。しかしそれを次の治療計画作成に活かすことや他職種の医療従事者にフィードバックすることなど行動に移していく能力がまだ欠けているのではないかと考えた。

【目的・方法】

第二部セッションⅡでは、セッションⅠで分類した7個の『社会が薬剤師に求めるニーズ』のうち、3個のニーズを抽出した。さらに、「抽出したニーズを満たす薬剤師とはどんなことができるのか」、それに対して、「自分たちは6年間でどのようなことができるようになったのか」を議論し、文章で表現した。

【議論の経緯】

セッションⅠにおいて当班では、社会が薬剤師に求めるニーズを、①一般の方から見えるニーズ、②一般の方から見えないニーズ（見えないニーズだが①を満たすために必要なこと）の2つに大分類した。セッションⅡでは2つのうち、①のニーズを満たすことのできる薬剤師に着目した。また、①に含まれる4つのニーズのうち、特に社会で求められると考えた3つのニーズに着目し、以下のように1つのニーズとした。

社会が安心して受けられるムダのない医療

- ・社会が求める分かりやすい説明
- ・家でも安心して受けられる医療
- ・削減

次に、「社会が安心して受けられるムダのない医療」を満たす理想の薬剤師として、7つの「できる」を見出した（表1左）。それに対応して、薬学教育を6年間受けた私達が現時点でできるようになったことを整理した（表1右）。尚、理想の薬剤師として「できる」7項目については、以下の流れで考え、表1にも同様の流れで記載した。

★理想の薬剤師として「できる」ことを見出すまでの流れ

セッションⅠで出ていた意見（KJ法で記載した各札）をそれぞれピックアップ

↓

ピックアップした意見に必要なと思われることを付加

↓

この他にも例として、「外国人が日本で平等に医療が受けられる」というニーズに対して、外国の方でも理解していただける服薬指導のできる薬剤師が理想であり、私達は図説や外国語リストを使って服薬指導をすることができるのではないか、英語での情報収集ならできるといった意見も出た。

表1. ニーズを満たす理想の薬剤師と今の私達ができることの議論過程

ニーズを満たす理想の薬剤師	6年間でできるようになったこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者にとって分かりやすい説明ができる。</li> <li>→ 患者の心に寄り添い、信頼関係を築くことが大切。</li> <li>→ 患者の心に寄り添い、信頼関係を築ける薬剤師。</li> </ul>	<p>患者の心に寄り添う気持ちはある。 (現場の先生方にも負けないかも??)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者にとって分かりやすい説明ができる。</li> <li>・副作用に気付くことができる。</li> <li>→ 患者情報の収集ができる。 医療情報を精査する力がある。</li> <li>→ 素早く正確な情報収集をし、患者に合わせた説明ができる薬剤師。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べる手段(PMDA、ガイドラインなど)を知っていて、活用できる。</li> <li>・医療情報を取捨選択して説明できる。</li> <li>→ 調べる手段(PMDA、ガイドラインなど)を知っていて、時間をかければ、取捨選択して説明できる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・副作用に気付くことができる(長期に診て分かることもある)</li> <li>→ 検査値や副作用について知っている、調べて気づくことができる</li> <li>→ 患者を継続的に診ることで、副作用に気が付くことができる薬剤師。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な検査値や副作用は分かる。</li> <li>・代表的なもの以外は、調べればわかる。</li> <li>・継続的には診たことがないので分からない。</li> <li>→ 代表的な検査値や副作用は分かる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・処方提案や代替薬を医師に提言できる。</li> <li>→ 気が付いた情報を基に、処方提案ができる薬剤師。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・処方提案までは難しい</li> <li>・まだまだ気づけないことも多い</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他職種連携が必須。</li> <li>→ 他の医療職種の職能を知り、活用できる。</li> <li>→ 医療スタッフの職能を理解し、尊重し、共に患者が安心できる医療を提供できる薬剤師。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各医療スタッフの職能は知っていて、尊重している。</li> <li>→ 医療スタッフの職能を理解できる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・残薬の管理ができる。</li> <li>・ポリファーマシーが実践できる。</li> <li>→ 代替薬への変更や不必要な薬を削減することのできる薬剤師。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間をかければ重複に気付ける。</li> <li>・代替薬も調べれば分かる。</li> <li>→ 代替薬や重複薬をリストアップし、医師に提案できる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の医療スタッフに理解し、受け入れてもらえるような説明ができる(人として大前提?)。</li> <li>→ 適切な言葉を選択して、医療スタッフや患者に説明できる薬剤師。</li> </ul>	<p>信頼関係を築くための挨拶、言葉遣いができる。</p>

【完成したプロダクト】

社会のニーズを満たす薬剤師はどんなことができるか？

ニーズ	ニーズを満たす薬剤師	6年間で できるよにたこと ⅢA
<p>社会が安心して受けられるムダのない医療</p> <p>社会が求める分かりやすい説明 家で安心して受けられる医療 削減</p>	<p>患者の心に寄り添い信頼関係が築ける薬剤師</p> <p>正確な情報収集をし、患者に合わせた説明ができる薬剤師</p>	<p>患者の心に寄り添う気持ちはある</p> <p>調べる手段(PMDAガイドラインなど)を知っていて、取捨選択して説明できる</p>
	<p>患者を継続的に診ることで副作用に気が付くことができる薬剤師</p>	<p>代表的な検査値・副作用はわかる</p>
	<p>気が付いた情報を基に処方提案ができる薬剤師</p> <p>医療スタッフの職能を理解し尊重し、共に患者が安心できる医療を提供できる薬剤師</p>	<p>信頼関係を築くためのあいさつ言葉使いができる</p> <p>医療スタッフの職能と理解できる</p>
	<p>代替薬への変更や、不必要な薬を削減することのできる薬剤師</p>	<p>代替薬や重複薬をリストアップし、医師に提案できる</p>
	<p>適切な言葉を選択して、医療スタッフや患者に説明</p>	

セッションⅡでは、「社会のニーズを満たす薬剤師は、どんなことができるか」というテーマに基づき、チーム内で討論し、模造紙にまとめたものを発表した。

### 【討論の経緯】

私たちの班では、薬剤師に求められる社会のニーズについてより具体的に討論し、そのなかで、より高度化・複雑化・多様化する医療に対応していくためには、質の高い医療を提供する必要があると考えた。したがって、「医療の多様化に対応できる薬剤師」を主題として捉えることにした。医療の多様化に対応できる薬剤師としてできることとして、〈情報の収集・評価・加工・提供〉〈連携〉〈チーム医療〉〈臨床研究〉〈地域への情報発信〉の5つの項目から討論を行った。

#### 〈情報の収集・評価・加工・提供〉

国内外の薬物治療において、文献から最新の情報を収集・検査値等の評価、さらにその情報をわかりやすく加工し提供できるのは薬剤師ならではあると考えた。ジェネラリストとして幅広く学び、自分の強みとして専門的な知識を習得するうえで、薬剤師はそれらの情報に敏感であることができる。それに対し、6年間の講義・実務実習・研究室での活動を通し、添付文書からの情報収集、統計処理・解析の知識習得による情報の評価をできるようになったと評価した。また、自らの研究成果をプレゼンテーションやポスターにわかりやすくまとめる活動、実務実習を通して指導せんを作成する活動を通して、情報を相手に応じて加工する経験を行った。情報の提供に対しては、実務実習で処方提案・服薬指導を経験したが、必ずしも十分な知識でベストな対応ができていないという意見に一致した。これは、私たちがこれから多くの経験を通し、より深く学んでいくべき課題である。

#### 〈連携〉

私たちの班の中で、薬局薬剤師が、自ら病院に患者さんの状態を聞きに行き、退院後からスムーズに外来療法に移行できるよう、薬薬連携をされていた薬局で、実習をした学生がいた。現在、全ての薬局がこのような取り組みをできていないが、地域包括医療が進み、外来療法が推進される中で、薬局薬剤師がもっと外に働きかけることで、個々の求めるニーズへの対応ができるのではないかと考えた。具体的には、薬局薬剤師側からも病院と積極的に連携をとり、レジメン・カルテ・検査値の把握や処方提供を行うことで、よりよい医療に貢献することができる。また、薬剤師がプロトコルに基づく医療に携わることもできる。薬のスペシャリストである薬剤師がプロトコル作成に携わることで、薬剤選択に薬剤師の意向を反映させることができ、薬の適正使用・適正管理による医療の質向上に貢献できる。6年間の教育で、連携を行うにあたり必要なこととして、フィジカルアセスメント

や、将来の医師・看護師・理学療法士となる学生と共に、多職種連携教育を行った学生もいた。

#### 〈チーム〉

専門薬剤師制度等を通して、薬剤師が専門的知識をもち、多職種とチームの一員となり患者さんのサポートに関与できる。ICTではTDM・抗菌薬選択、NSTでは1日に必要な栄養量計算、調整、緩和ケアでは疼痛コントロールなどが、薬剤師がチーム医療においてできることとして挙げられる。実習を通して、各チーム医療に要する専門的知識や視点、各医療従事者が1人ひとりの患者さんに対し意見を出し合い情報共有を行う様子から、チーム医療の重要性を学んだ。

#### 〈臨床研究〉

薬剤師は臨床・基礎研究を通じて情報の作り手となることができる。薬物療法における新たな副作用情報・治療効果において、患者情報をもとにデータ解析を行い、新たな知見として提示することで、育薬に貢献できる。実務実習を通して臨床研究を行う流れの把握や、研究室でのデータ解析を経験した。実務実習先や配属された研究室により、学修到達度には差があるように感じられた。

#### 〈地域への情報発信〉

セルフメディケーションの推進・在宅医療が進められる中で、薬剤師は地域の方への情報発信ができる。正しい薬の服用方法・薬に関する情報はもちろんのこと、薬剤師が栄養士等と連携をとり、栄養管理に携わっていくことができる。薬剤師が栄養における知識も持っていることがあまり認知されていないことから、積極的に関わっていけば、地域の中での活動の幅も広がるだろう。オープンキャンパスや地域の薬剤師の活動への参加を通じ、学生の中に具体的活動に携わることができた。

ニーズを満たす薬剤師はどんなことができるのか		6年間の学修で、自分たちができるようになったこと
〈情報の収集〉	国内外の情報に敏感であること。 検査値の読み取りを行うこと。	添付文書・カルテから読み取りができるようになった。
〈情報の評価〉	検査値の評価を行うこと。	講義・各研究室での活動を通し、統計処理・解析を行った。
〈情報の加工・提供〉	相手に応じて伝わりやすいように情報を加工・提供する。	プレゼンテーション・ポスター作製・発表。 指導せん作成。
〈連携〉	薬薬連携・共有 薬局薬剤師側からも病院薬剤師へ出向き、レジメン・カルテ・検査値の把握 処方提供を行う。 PBPMに基づく医療。	フィジカルアセスメント 多職種連携教育
〈チーム医療〉	ICT：TDM、抗菌薬選択 NST：1日に必要な栄養量計算、調整 緩和ケア：疼痛コントロール	薬剤師としての知識を深めた。 チーム医療の重要性を学んだ。
〈臨床研究〉	情報の作成	実務実習での経験 研究室での活動を通し、データ解析読み取りができるようになった。
〈地域への情報発信〉	地域の方へ健康教育・薬育	お薬教室（オープンキャンパスや地域への取り組み）

# 社会のニーズを満たす薬剤師は III B

どんなことが出来るか？

## ニーズ

医療の多様化  
に対応できる  
薬剤師

ニーズを満たす薬剤師は  
どんなことが出来るか？

### 情報の収集・評価・加工・提供

- ・<sup>(収集)</sup>国内外の文献、<sup>(評価)</sup>検査結果評価
- ・新しい情報に
- ・<sup>(加工提供)</sup>検査結果に、<sup>(加工提供)</sup>相対的/絶対的/相対的/絶対的検査結果の提供

### 連携

- ・薬業連携・共有
- ・業間薬剤師(別から)も病院薬剤師へ(レジメンの把握、カルテ・検査値の把握)
- ・処方提供できる
- ・PBPMに基づく医療

### チーム

- ・チームの機能発揮
- (感染-TDM 抗菌薬選択
- 栄養・日・必要検査量計算調整
- 緩和・疼痛コントロール)

### 臨床研究 (情報の作成)

- ・外(地域)へ情報を発信
- ・地域の方へ健康教育薬育

6年間の学修で! 自分たちが  
できるようになったこと

### 情報収集

添付文書・カルテから。

### 評価

統計処理・解析など。  
講義・各研究室での活動から。

### 加工

プレゼンテーション・ポスター発表(作成)  
指導せん作成。

### 提供

△ 実務実習での処方提案・服薬指導

### 連携

- ・フィジカルアセスメント
- ・多職種連携教育

### チーム

- ・チーム医療の重要性を学ぶ。
- ・薬剤師としての知識を深めた。

### 臨床研究

実務実習での経験、研究室  
でデータ解析、統計とかができるようになった。

### 情報発信

地域の方[小児・オゾン・イン]への  
お薬教室

## 【目的】

第二部セッション I では、KJ 法を用いて「社会が薬剤師に求めているニーズ」の抽出と整理を行った。第二部セッション II では特定のニーズをピックアップし、そのニーズを満たす薬剤師はどのようなことができるのか、そして 6 年間の学修で各々ができるようになったことを話し合った。

## 【行った作業の要点】

- ・ KJ 法のプロダクトを見直し、ニーズをリストアップした。
- ・ ニーズを 1 つ選択し、そのニーズを満たす薬剤師はどのようなことができるか、そして 6 年間の学修で各々ができるようになったことを文章で表現した。
- ・ 議論の内容を発表した。

## 【議論の経緯】

まず、セッション I においてまとめた社会のニーズについて、その内容を確認した。私たちの班では、いくつかのニーズのうち、薬剤師には「親しみやすさ」が最も重要だろうと考えた。医療に携わる者として、適切な薬物治療の実施だけではなく、地域における健康相談などの際にも親しみやすさや信頼関係が不可欠だからである。従って、「誰よりも親しみやすい薬剤師」というニーズを選択するに至った。

私たちの班では、「誰よりも親しみやすい薬剤師」となるためにどのようなことができるか考えた際に、「信頼関係が築けること」が大きなテーマとなった。信頼関係があれば、薬剤師から患者へという方向だけではなく、患者から薬剤師へ、積極的に様々な情報を話してくれるようになる。これによって結果的に適切な薬物治療に繋がっていくと考えられる。ここで、信頼関係を構築するといっても抽象的なため、信頼関係を構築するための具体的な行動について大きく 2 点考えた。

1 つは、1 人 1 人に寄り添うことである。例えば、薬局-病院間で患者情報をしっかり共有することで、患者の状態を細かく管理でき、ひいてはささいな変化に気づくことも可能になる。また、患者の言葉の裏を見て、それに応えることができれば、寄り添ってくれていると感じてもらえる。他には、患者との簡単な世間話や雑談をしていけば、対等な立場としての信頼関係を構築することもできる。

もう 1 つは、薬剤師が何をしているのか、知ってもらえるような活動をすることである。薬剤師は医師や看護師等と比べると一般の知名度は低く、その業務内容はあまり知られていないと考えられる。従って、地域の健康イベントに積極的に参加して、地域住民に対して薬剤師の業務などを知らせていくことが大切である。その中で、薬剤師は患者と接するだけではなく、地域住民の健康をしっかりサポートできる身近な存在であることをアピールできればなお良い。

次に、6 年間の学修で各々ができるようになったことについて、ニーズを満たす薬剤師

ができることと関連付けて考えた。

「1人1人に寄り添うこと」に関しては、知識や経験に基づいた共感的態度がとれるようになったことが挙げられる。例えば、大学でのシミュレーションや患者との実際のやりとりを通して、相手の話を聞く余裕ができ、適宜相談してもらえるようになった。また、医薬品や疾病のことを学ぶうちに、それぞれの疾病の症状や重さを知り、医薬品の不適切な使用や副作用の見逃し等が時として患者の命を脅かすことを知った。その中で自然と命を意識するようになった。他には、疑問に思ったことについて、適切な情報源を活用して効率的に調べられるようになったことも学修の賜物である。

「薬剤師が何をしているのか、知ってもらえるような活動をする事」に関しては、薬剤師の業務を知ってもらうことの大切さを学ぶことができたと考えている。私たちはまだ薬剤師として働いたことはない。しかし、薬剤師の業務内容や医療現場の実情などを学んできた経験について、家族や知人などの身近な人に話をすることはできる。薬学部出身でなければ、薬剤師が何をしているのかについて具体的にイメージできる人は多くないため、この地道な活動は非常に効果的だと考えられる。

以上のように議論してきたが、「誰よりも親しみやすい薬剤師」というニーズを満たすことは、現時点での経験・能力では達成し難いことが分かった。しかし、薬剤師は生涯学習を通して様々な点において成長すべき職種だとされている。従って、薬剤師になってからそのニーズを満たすことができるように邁進していく、という気概こそが肝要である。

作成したプロダクト

